

DAIHEN REPORT

I N T E G R A T E D R E P O R T

2023



- 02 経営の基本的な考え方
- 03 ダイヘングループのあゆみ
- 05 事業紹介
- 07 財務・非財務ハイライト

価値創造

- 09 トップメッセージ
- 11 価値創造プロセス
- 13 財務戦略
- 15 特集① Green Solutionsの取り組み
- 18 特集② Tailored Solutionsの取り組み
- 19 特集③ 研究開発体制
- 20 特集④ 当社ロボットを活用した生産自動化の取り組み

サステナビリティ経営

E：環境

- 21 環境への取り組み
- 23 TCFD提言への対応

S：社会

- 25 人材戦略・人材育成
- 26 ダイバーシティ・働きやすい職場づくり
- 27 安全衛生・健康
- 28 地域貢献
- 29 品質
- 30 資材調達

G：ガバナンス

- 31 コーポレート・ガバナンス体制
- 32 役員一覧
- 33 役員報酬
- 34 コンプライアンス
- 35 リスクマネジメント
- 36 知的財産・情報セキュリティ

会社情報

- 37 11ヵ年データ
- 39 グローバルネットワーク
- 41 会社概要・株式情報
- 42 開示資料体系

編集方針

本レポートは、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様、ダイヘングループの価値創造について広くご理解いただき、信頼関係を築くことを目的として発行しています。より幅広い立場の方々にご理解いただけるよう、わかりやすく、読みやすい誌面の構成に努めています。

今後も、ステークホルダーの皆様との建設的な対話等を通じて、更なる内容の充実と改善を図ってまいります。

ご意見・ご要望について

今後の活動と本レポートの改善を図るために、皆様のご意見・ご要望を是非お聞かせください。

当社ホームページ→お問い合わせ→その他のお問い合わせ→お問い合わせフォーム

報告対象範囲

ダイヘングループ（㈱ダイヘンおよび連結子会社）の活動報告を基本としています。一部の活動データについては範囲が異なる場合があります。

報告対象期間

2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）の1年間。ただし、それ以前から継続的に実施されている活動の紹介や、データの経年変化を示す場合など、必要と考えられるものについては2021年度以前、2023年度以降の情報も一部含んでいます。

参考にしたガイドライン

- IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創ガイダンス」

次回発行

2024年9月頃予定

免責事項

本レポートには、ダイヘングループの過去と現在の事実だけではなく、発行日時点における計画や見通し、経営計画・経営方針に基づいた将来予想が含まれています。この将来予想は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。皆様にはご了承をいただきますよう、お願い申し上げます。

経営の基本的な考え方

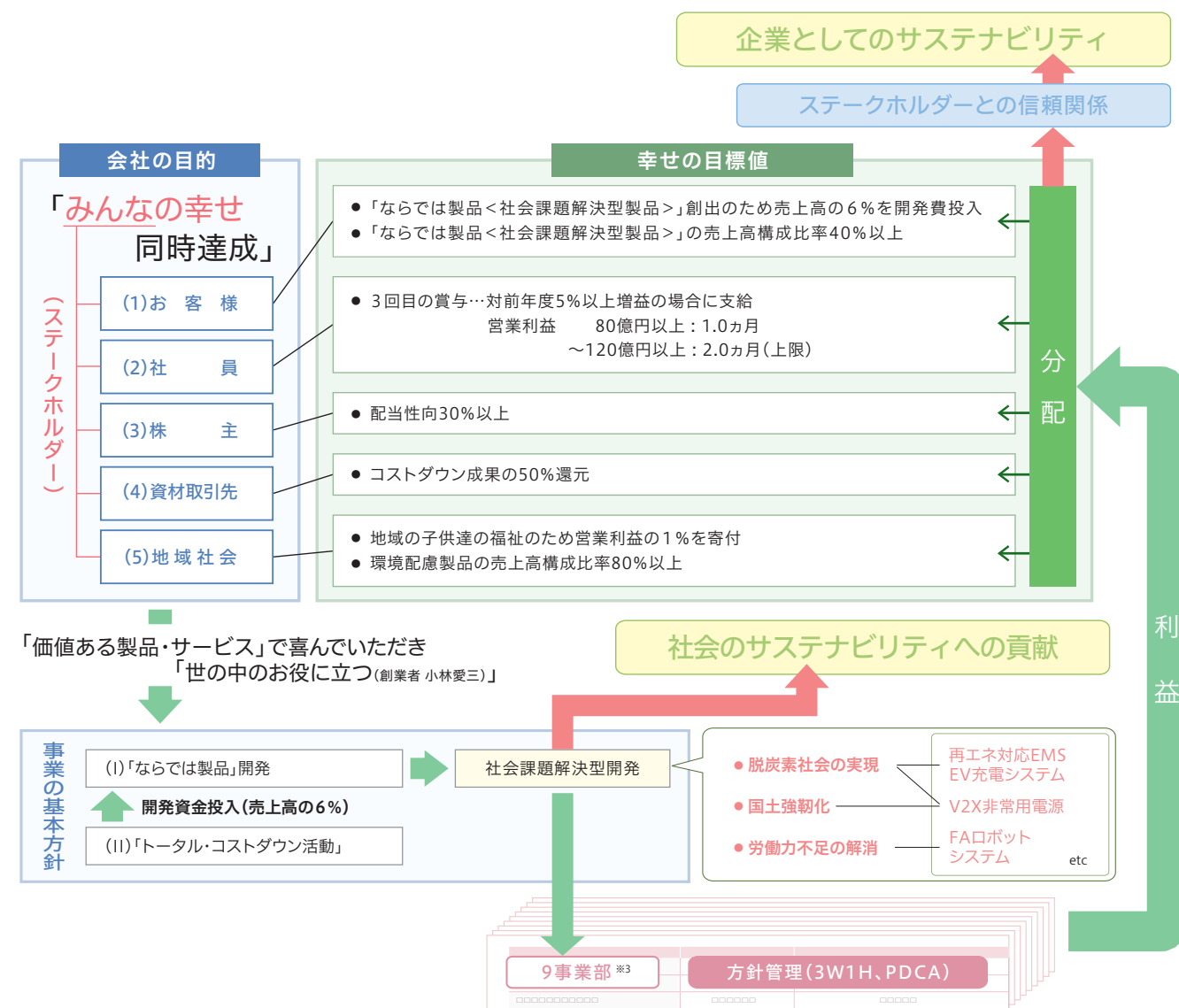
（2012年4月1日制定）

ダイヘングループは、ステークホルダーへの適切な利益還元を通じて「**みんなの幸せ**^{※1}」**同時達成**」を目指しています。
（第5代社長 小林啓次郎）

ダイヘングループは、当社を取り巻くステークホルダー（お客様、社員と家族、株主、資材取引先、地域社会）の皆様により多くの幸せを感じていただくこと（『みんなの幸せ同時達成』）を会社の目的とし、各ステークホルダーごとの具体的な目標（『幸せの目標値』）を明確に定め、その実現を目指しています。

事業の基本方針である当社独自の価値を持つ「ならでは製品^{※2}」開発により、社会課題解決に貢献する製品を創出することで社会のサステナビリティに貢献し、その結果が売上高・利益の増加に結びつきます。そして「幸せの目標値」に沿って利益の分配を充実させることが、企業としてのサステナビリティの基盤であるステークホルダーとの信頼関係の強化につながります。

ダイヘングループで働く全ての社員は会社の目的を理解し、その実現に向けて高く大きな役割を担い、全社一丸となって取り組んでいます。



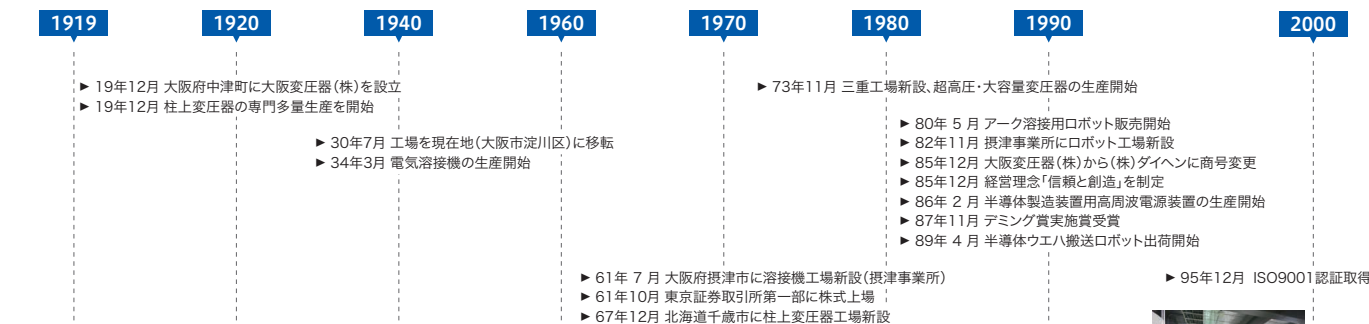
※1 みんなの幸せ
1985年に経営理念「信頼と創造」を制定した際、当時の社長である小林啓次郎が、「私は常々、私たちは何のために働くのかを思いをいたしますが、究極のところ、みんなの幸せのためと考えております。」と社内外に表明した。

※2 ならでは製品
社会課題の解決に資する圧倒的価値を持つ当社だけの製品。

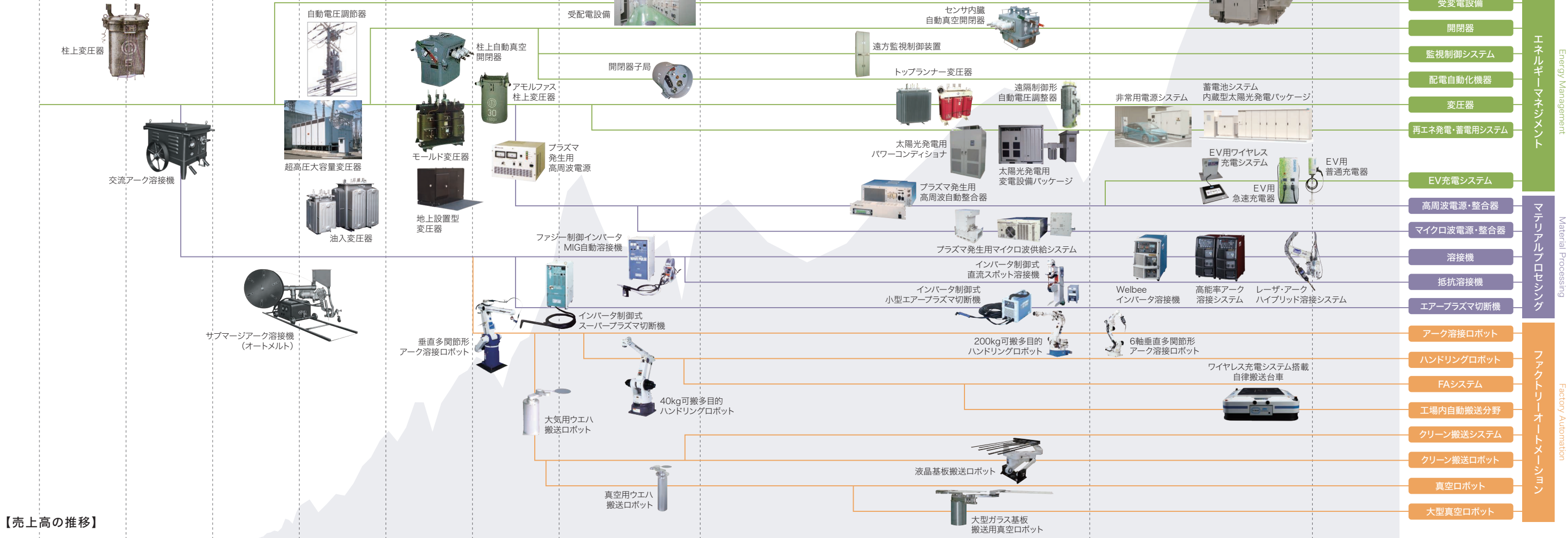
※3 9事業部
配電システム事業部、大形変圧器事業部、産業電機事業部、EMS事業部、充電システム事業部、FAロボット事業部、クリーンロボット事業部、溶接・接合事業部、プラズマシステム事業部

創立以来、社会のニーズに応え、技術革新に挑み続けた ダイヘングループのあゆみをご紹介します。

【沿革】



【製品の系譜】



【売上高の推移】



創業から戦後・高度経済成長へ

1919年、小林愛三は「日本の産業発展に貢献したい」という使命感に燃え、「品質優良 価格低廉 納期迅速」の精神のもと「大阪変圧器株式会社」を創業しました。当時としては画期的なフォード生産方式と代理店制度の採用により、高品質かつ低価格な柱上変圧器を販売しました。その後、時代の要請に応じて大形変圧器・溶接機等、業容の拡大にも取り組みました。

第二次世界大戦後、空襲による損壊や電力負荷急増等により柱上変圧器不足が深刻化した際には、あらゆるメーカーの柱上変圧器の修理を手掛けました。高度成長期には、変圧器・溶接機を大量生産し、社会インフラの整備や造船・自動車等、社会の発展に尽力しました。

各種改革の断行と経営理念の制定

1970~80年代、当社は産業用ロボット事業・半導体製造装置用電源事業・クリーン搬送ロボット事業等の新規事業を展開するとともに、事業の国際化やTQCの導入等の各種改革を実施しました。

また、当時の社長であった小林啓次郎は、社名を「大阪変圧器」から「ダイヘン」へ変更し、新しいシンボルマーク(社標)を採用するとともに、経営理念として「信頼と創造」を制定しました。

※関係する人々との信頼を大切に、常に新しい価値の創造を行うことによって、健全な成長を目指すとともに、社会の発展に貢献する。

海外事業の拡大と売上高1,000億円の達成

1997年、タイに続く2カ国目として経済成長著しい中国(牡丹江)に溶接機の海外生産拠点を設けたことを皮切りに、各事業においても中国へ進出しました。また、台湾や韓国にも子会社を設立するなど、市場が拡大するアジア圏を中心に販売・生産拠点を整備し、海外事業の拡大に努めました。

2007年には溶接ロボットのグローバルでの需要に対応する「六甲事業所」を新設、同年の売上高は初の1,000億円を達成するとともに、海外売上高比率は25%まで成長しました。

「みんなの幸せ同時達成」の制定と「ならでは製品」の開発推進

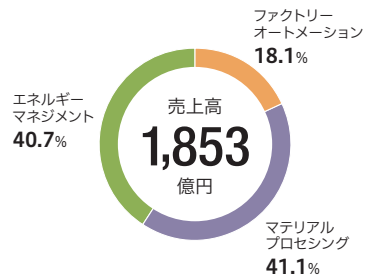
2012年、経営の基本的な考え方として、会社の目的を、ステークホルダーの皆様により多くの幸せを感じていただくこと(『みんなの幸せ同時達成』)と定め、各ステークホルダーごとの具体的な数値目標「幸せの目標値」を明確にしました。

そのための重点策として、「ならでは製品」と銘打った当社独自の価値を持つダントツ性能を備えた製品の開発を推進するとともに、開発スピードの向上にも取り組みました。その結果、お客様に喜んでいただき世の中のお役に立つ数多くの製品・技術を創出、当社のその後の成長につなげています。

事業紹介

再生可能エネルギーの活用や電力系統管理の高度化に貢献する電力機器、工場全体の淀みない自動化を実現する産業用ロボット、モノづくりの技術革新に必要な新プロセスを提供する溶接・接合機器やプラズマ発生用電源等、当社の製品は今日も社会のいたるところで使用され、人々の暮らしを支えています。

今後も社会課題の解決に資する製品創出を通じて、社会の持続的な発展に貢献していきます。



エネルギー・マネジメント

スマートコミュニティ・再生可能エネルギー・蓄電池等、多様化する分散化電源を制御・管理するシステムや機器を開発・提供するとともに、電力系統管理の高度化や電気自動車等、電力の新たな用途に資する技術を開発します。

電力機器



柱上変圧器

配電線を通る高圧の電気を家庭等で使用する電圧に下げること、電力の安定供給を支えています。



地上設置型変圧器

都市部での景観保全・災害防止・道路空間確保に有効な地中配電を支えています。



自動電圧調整器

分散電源の連系等による配電線の電圧変動に対して最適な電圧制御を行い、電力の安定供給を支えています。



超高圧変圧器

長寿命化、低損失化、低騒音化、コンパクト化を追求。当社の高品質な変圧器が電力の安定供給に貢献しています。



トッランナー変圧器

高効率でエネルギー損失の少ないトッランナー変圧器が、CO₂削減に貢献しています。



パワーコンディショナ

業界初の空気熱交換冷却方式を採用し、従来のエアコン方式に比べ大幅な省エネ効果を実現しました。(平成27年度省エネ大賞受賞)



自家消費型太陽光発電向け蓄電池システム

事業所・工場等における自家消費型太陽光発電向けの蓄電池システム。余剰電力を蓄電池に貯めて必要な時に使用することで太陽光発電電力を最大限活用でき、CO₂排出量を削減します。さらに、電力ピーク抑制により電気料金削減にも大きな効果を発揮します。



V2Xシステム

EV・PHEV用充放電器と蓄電池設備を一体化。停電など非常時に電気自動車のバッテリーや蓄電池から避難所等の重要負荷に電力を供給することで災害に強い街づくりに貢献しています。

EV(電気自動車)用 充電システム



EV用 普通・急速充電器

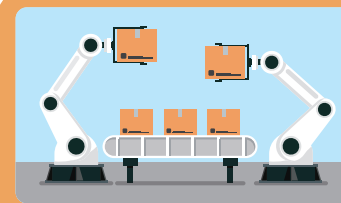
普通・急速充電器のラインアップにより、お客様のニーズにあわせた充電が可能です。EVの普及を促進し、脱炭素社会の実現に貢献しています。



EV用 ワイヤレス充電システム

駐車場で「停めるだけ」で自動で充電を開始します。「磁界共鳴方式」採用により、業界最高水準の高効率充電を実現。利用者の利便性を向上します。

ファクトリーオートメーション



溶接ロボット・クリーン搬送ロボットで培った精度が高く機敏な動作特性を活かした当社独自のロボットを開発するとともに、当社が保有する独自技術を活用した各種センサや監視制御ソフト・周辺機器を組み合わせたフレキシブルで導入しやすいシステムを提供することで、工場全体の淀みない自動化を実現します。

FAロボット・工場内自動搬送機器

クリーン搬送ロボット



アーク溶接ロボット

高度な動作性能を有する溶接ロボットが、工場の自動化と溶接の高品質化に大きく貢献しています。



ハンドリングロボット

部材搬送や組立・加工など、工場における単純作業をロボットが素早く正確に行うことで生産性向上を実現します。



自律搬送台車 (AMR)

ガイドレスで、狭い通路の走行や障害を回避しつつ小回りの利く搬送が可能。積載型・けん引型・フォーク型等の幅広いラインアップにより様々な搬送シーンに対応。ワイヤレス充電システムも標準搭載しています。



ウエハ搬送ロボット

塵一つ許されないクリーンな環境で高速・高精度にシリコンウエハを搬送します。省エネ・スマート社会創出に寄与する半導体デバイスの生産性向上に貢献しています。

マテリアルプロセッシング



プラズマ・レーザ・超音波・摩擦熱等のエネルギー源を高精度で制御することにより、金属・半導体・絶縁材料・樹脂材料等の精密な接合・切断・成膜・表面処理・造形等、モノづくりの技術革新に必要な新プロセスを提供します。

溶接・接合機器

半導体関連機器



世界最高レベルの溶接・切断性能かつ省エネ・安全設計により産業界における生産性向上と地球環境保全に大きく貢献しています。



主に建築分野で使用され、鉄骨とコンクリートを一体化するためのくさびの役割を担うスタッドを効率よく溶接します。建物や橋梁の建設等で当社のスタッド溶接機が役立っています。

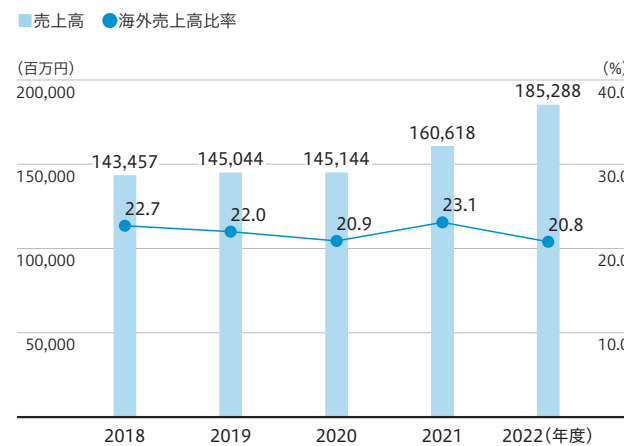


半導体デバイスの製造プロセス(微細加工)に不可欠となる、高品質で安定したプラズマを発生させる電源装置。IoT、AIの進化を支え、持続可能な産業の発展に貢献しています。

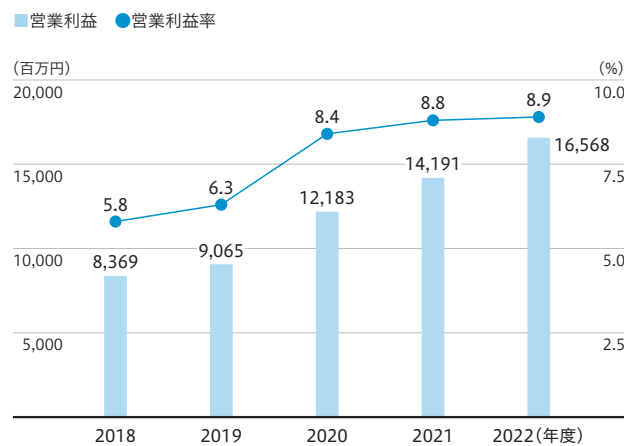
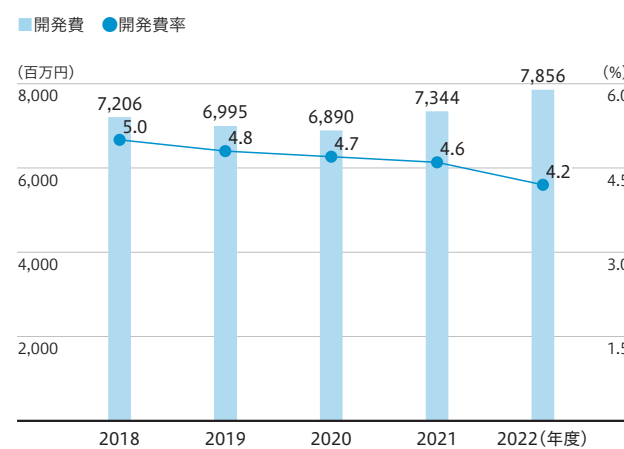
財務データ

2022年度の業績は、売上高1,853億円、営業利益165億円で売上高、営業利益ともに2021年度を上回り、増収増益となりました。また開発費^{※1}を継続的に増加させることで、研究開発に積極的に取り組んでいます。

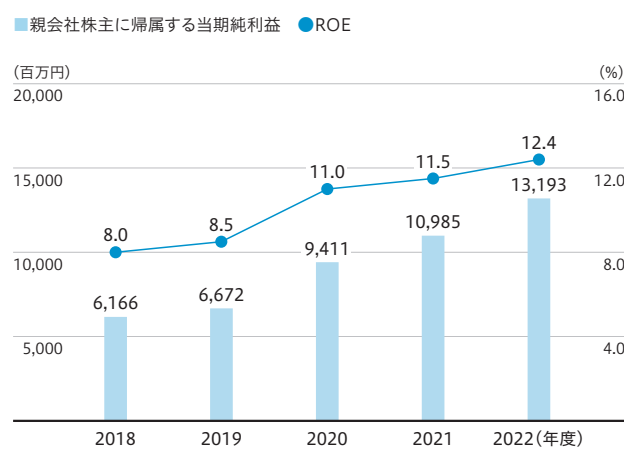
売上高／海外売上高比率



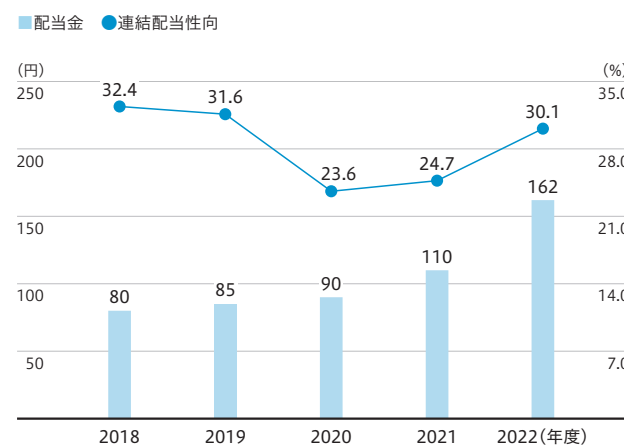
営業利益／営業利益率

開発費／開発費率^{※1}

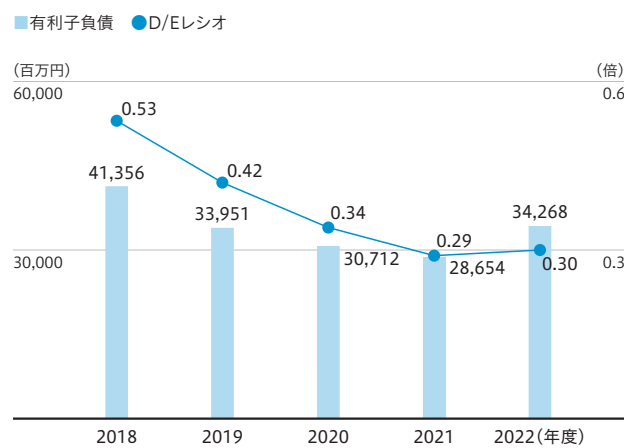
親会社株主に帰属する当期純利益／ROE



配当金／連結配当性向



有利子負債／D/Eレシオ

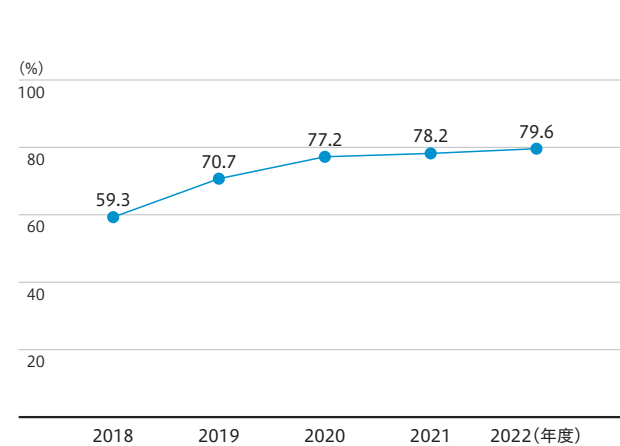
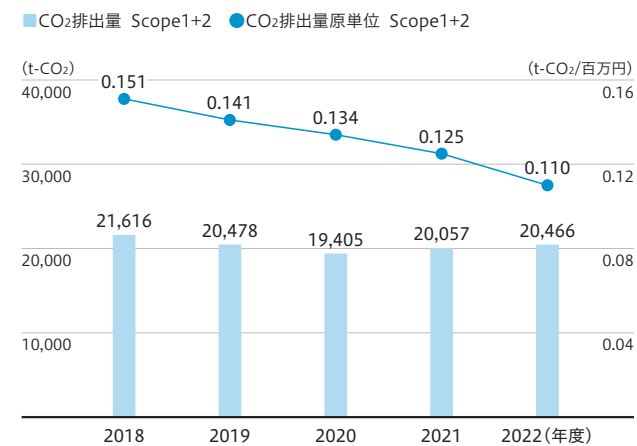
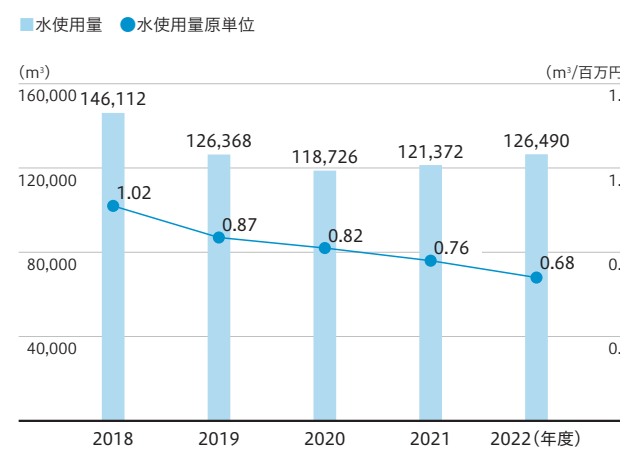
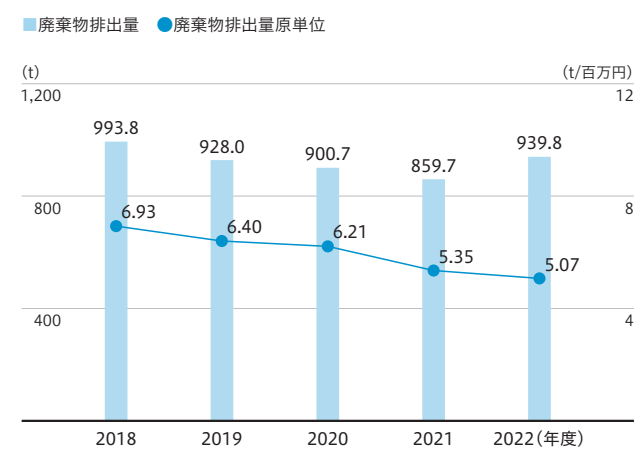
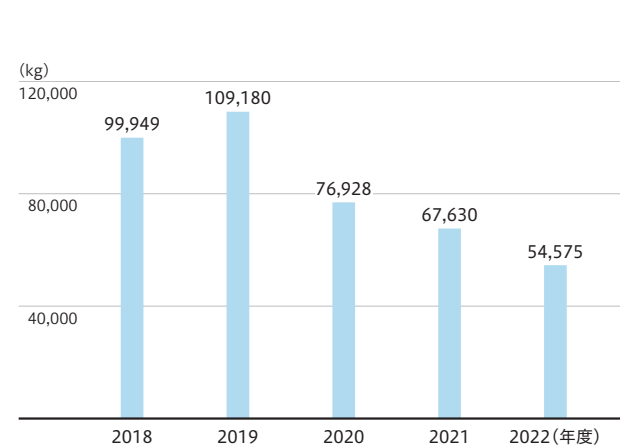


※1 開発費は研究開発費だけでなく特許料などの開発関連費用を含む。開発費率は連結売上高に対する開発費の比率。

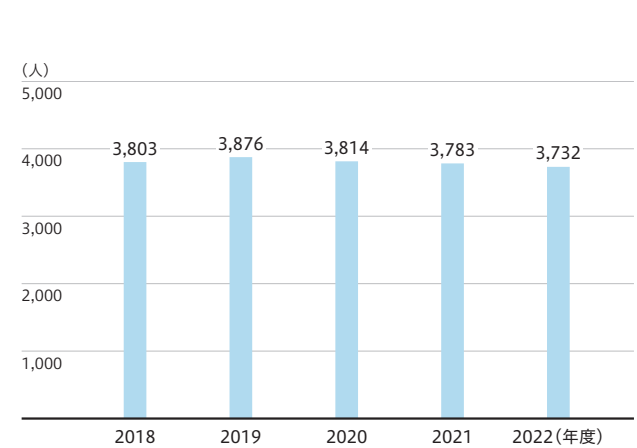
非財務データ

環境負荷低減に資する製品開発に取り組み、環境配慮製品の売上高構成比率は向上しています。

また売上高が増加傾向にある中、各事業所において諸施策に取り組むことで、CO₂排出量等の各環境指標において総量をほぼ横ばいとし、売上高原単位では年々削減させています。

環境配慮製品売上高構成比率^{※1}CO₂排出量／CO₂排出量原単位^{※2}水使用量／水使用量原単位^{※2}廃棄物排出量／廃棄物排出量原単位^{※2}PRTR指定化学物質大気排出量^{※2}

従業員数



※1 9事業部の国内製品売上高(部品、修理サービス等を除く)における環境配慮製品の売上高比率。

※2 対象範囲は、(株)ダイヘン(十三事業所、六甲事業所、三重事業所、千歳工場、兼平工場)および関係会社生産拠点(鳥取事業所、大分事業所、松戸事業所、恵庭事業所、弘前事業所、香川事業所)、海外生産拠点(牡丹江OTC溶接機、OTC機電(青島)、OTC DAIHEN Asia、DAIHEN ELECTRIC、ダイヘンOTC機電(北京)、ダイヘン精密機械(常熟))。

トップメッセージ

社会課題の解決に 貢献するために

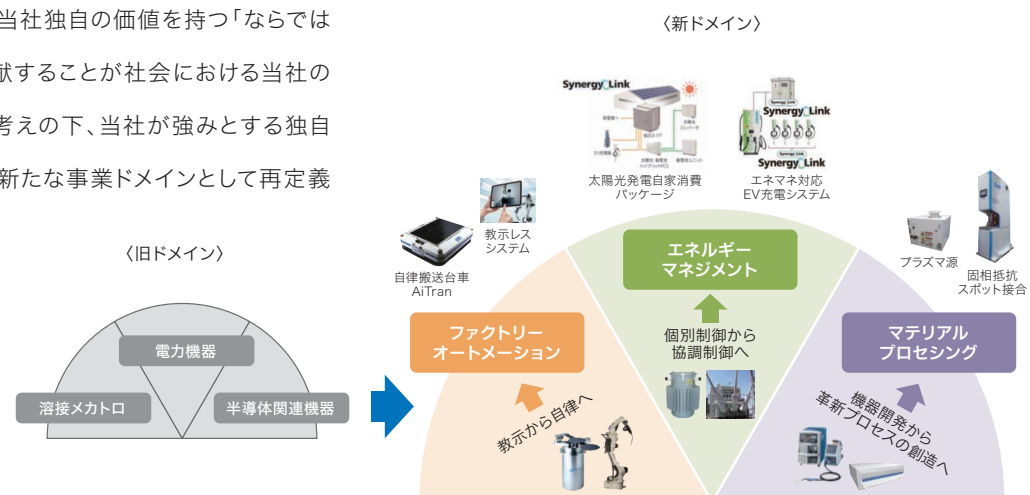
代表取締役社長
蓑毛 正一郎

当社は、社会課題の解決に積極的に貢献する開発型企業を目指しており、その姿勢をより明確にするため、2023年度より決算での報告セグメントを、当社の3つの技術分野による「エネルギーマネジメント」、「ファクトリーオートメーション」、「マテリアルプロセッシング」に変更することにいたしました。

この新たなセグメントは、当社独自の価値を持つ「ならでは製品」を創出し世の中に貢献することが社会における当社の役割・存在意義であるとの考えの下、当社が強みとする独自技術とその発展の方向性を新たな事業ドメインとして再定義したものです。

現在取り組み中の中期計画“Step Up 2023”では、限りある経営資源（ヒト・モノ・カネ）を集中的に

投下し資本効率を高める必要があるとの課題認識から、「エネルギーマネジメント」、「ファクトリーオートメーション」、「マテリアルプロセッシング」の分野において当社が強みとする技術が活かせ、社会課題としての重要性が高く、市場の成長が期待できる「地球環境保護、CO₂削減」や「労働力不足解消」「多様な



働き方支援」を最重点分野と位置づけました。そして、これらの社会課題解決に寄与する製品の開発・市場投入を目指す「Green Solutions & Tailored Solutions」の推進により、経済的価値と社会的価値の両立を目指しております。

「Green Solutions」では、再生可能エネルギーの活用拡大、環境負荷の低減、EV普及、省エネ等に資する用途別に最適化した標準製品・パッケージの開発に取り組み、「Tailored Solutions」では、狭隘スペースでの自動化、設備管理の負担軽減、作業教育者の不足解消などに資する機器・システムの開発を推進しております。

そのほか、開発の強化・スピードアップのため、事業部間・技術開発本部の連携やフロントローディング開発の徹底による製品・要素技術開発の促進といった社内活動のみでなく、大学・研究機関・パートナー会社とのアライアンスを積極的に活用し独力では困難な社会課題解決に立ち向かうパートナーを増やし、そのために必要となる研究開発費の増強や新開発センター建設検討に取り組んでおります。

また、EV向け充電システムや再生可能エネルギー発電事業者向けEMSなどの新たな事業領域での新商材の販売拡大をスピーディーかつ強力に推進する最適なパートナーとの関係構築に取り組むほか、販売子会社の統廃合など販売網の整備を進めるとともに、これらパートナーとの関係構築や行政・業界団体・大手顧客等への働きかけおよび情報発信・収集力の強化を図っております。

この3ヵ年の中期計画に取り組み2年が経過しましたが、「Green Solutions & Tailored Solutions」の製品開発・市場投入は着実に進んでおり、2022年度の業績はコロナ禍での経済活動の制約や部材調達難などを乗り越え過去最高の売上高・利益となりました。

中期計画最終年度となる2023年度は、半導体関連市場が調整局面となり中期計画の売上高目標の2,000億円には届か

ない見通しであります。脱炭素関連投資の拡大や生産自動化・EV投資拡大を背景とするEMSやFAロボットの販売拡大を見込んでおり、その先の事業展開のためにも諸施策については力を緩めることなくやり遂げてまいります。

そのための原動力として重要となるのが人材であり、2022年度には別途本レポート内記載の人材育成方針や社内環境整備方針を改めて明確にいたしました。

当社は以前から、ステークホルダー（お客様、社員と家族、株主、資材取引先、地域社会）に同時に幸せになってもらうこと、「みんなの幸せ同時達成」を会社の目的とし、ステークホルダーごとの具体的な目標値、「幸せの目標値」を定め、それを達成し続けることを経営の基本的な考え方としております。

メーカである当社は、「価値ある製品・サービスでお客様に喜んでいただき世の中のお役に立つ」ことを使命とし、業務プロセスに潜む無駄を徹底的に排除する「トータル・コストダウン活動」で捻出した資金を開発に投入することで、当社が培ってきた固有技術と最先端技術を融合し社会やお客様の本質的なニーズを探究し満足いただける「ならでは製品」をより高い次元で開発・提供し続けます。そして社会やお客様に満足いただくことが、結果として売上高・利益の拡大に結び付き、ステークホルダーごとの目標値に沿った利益還元の実現いたします。

この考え方に基づき、中期計画に掲げる重点分野の社会課題の解決に積極的に貢献する企業として発展し続けるため、社員同士が当社の価値観・行動指針である「DAIHEN WAY」を共有し、大きな推進力を生み出すことで価値ある製品・サービスをつくり続けていけるよう、これらの新たな方針にも積極的に取り組んでまいります。

今後とも、持続可能な社会の実現に向け当社の役割を果たしてまいりますので、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

価値創造プロセス

中期計画“Step Up 2023”のもと、社会課題に真正面から向き合う「研究開発型企業」を目指しています。ESG（環境・社会・ガバナンス）への取り組みを事業活動の基盤として、“Green Solutions”“Tailored Solutions” の分野を重点と定め開発強化を図り、当社独自の価値を持つ製品を次々と創出、市場投入し、社会のサステナビリティに貢献します。

社会のサステナ

ビリティへの貢献

Green Solutions — 提供

>>P.15

脱炭素社会実現への貢献

脱炭素社会の実現に貢献するため、再生可能エネルギーの活用拡大、環境負荷の低減、EV普及、省エネ等に資する用途別に最適化した標準製品・パッケージを開発する。

価値 — Tailored Solutions

>>P.18

モノづくりの現場が抱える課題解決手段の提供

モノづくりに携わる様々な立場の人々に寄り添い、それぞれが抱える課題に応じた最適な解決手段を提供する。労働力不足解消、3K作業からの解放、働き方や働き方の多様化等の社会課題解決はもとより、狭隘スペースでの自動化、設備管理の負担軽減、作業教育者の不足解消等に資する機器・システムを開発する。

社会課題に真正面から向

2023年度中期計画

き合う研究開発型企業へ

“Step Up 2023”

事業活動

事業の
基本方針

ならでは開発

お客様に喜んでいただき、世の中のお役に立つダイヘン独自の製品価値を創出する

トータル・コストダウン活動

業務プロセス全体に潜む見えない無駄を徹底的に排除することで、開発強化に必要な資金を内部から生み出す。

ダイヘングループの強み

電力変換技術、高周波技術、自律分散協調制御技術、
接合プロセス技術、高精度・高速ロボット制御技術

×

最新の技術

事業

ドメイン

エネルギーマネジメント

>>P.05

ファクトリー

オートメーション

>>P.06

マテリアルプロセッシング

>>P.06

経営資本 (2022年度末)

財務資本

有利子負債: 34,268百万円
自己資本: 113,800百万円

人的資本

連結従業員数: 3,732人
国内総拠点: 2,222人
海外総拠点: 1,510人

製造資本

設備投資額: 4,872百万円
国内生産拠点: 14拠点
海外生産拠点: 10拠点

知的資本

研究開発費: 6,311百万円
特許件数(国内): 1,351件
特許件数(海外): 849件

自然資本

CO₂排出量: 20,466t
水使用量: 126,490m³

持続的成長を支える基盤

E: 環境への取り組み

>>P.21

S: 社会への取り組み

>>P.25

G: ガバナンスへの取り組み

>>P.31

財務戦略

「幸せの目標値」に沿ったステークホルダーへのバランスのとれた利益還元と積極投資によって、ROEの向上と自己資本充実を両立させていきます。

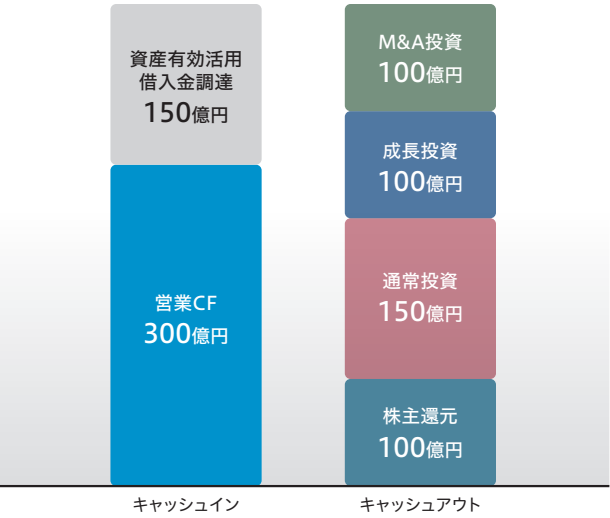
2023年度 中期計画 財務目標	売上高	2,000億円以上(うちG&T ^{※1} 350億円以上)	2022年度 実績	売上高	1,853億円(うちG&T ^{※1} 178億円)
	営業利益率	10%以上		営業利益率	8.9%
	ROE	12%以上		ROE	12.4%
	開発費率 ^{※2}	6%以上		開発費率 ^{※2}	4.2%
	配当性向	30%以上		配当性向	30.1%

※1 Green Solutions & Tailored Solutions。
※2 連結売上高に対する開発費の比率。開発費は研究開発費だけでなく特許料などの開発関連費用を含む。

2023年度中期計画におけるキャッシュ・フロー

2023年度中期計画では営業キャッシュ・フローを上回る投資を積極的に実施する予定です。

キャッシュ分配のイメージ(3年累計)

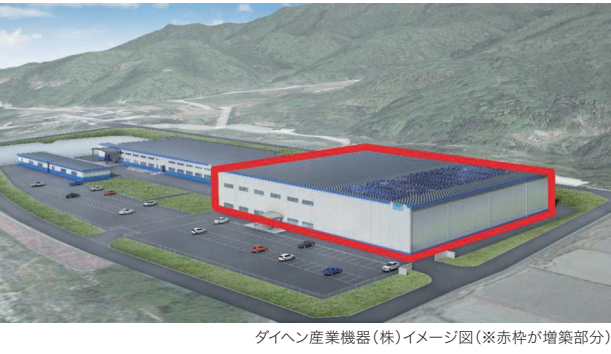


M&A投資

既存事業において新規顧客開拓や周辺事業拡大加速を目的にこれまで以上にM&Aの検討を進めており、過去のM&Aの実績と同様に現在のパートナー企業への資本参加や子会社化といった方法で事業の拡大を目指します。2022年度はドイツにおいて中小システムを得意とするロボットSler「Femitec社」を買収し、欧州事業を強化しました。また2023年10月には新たに東北電機製造株式会社の株式取得を行いグループ会社に加えることで、東北地方での販売拡大を図るとともに、同社とのシナジーによる生産体制の強化を図る予定です。

成長投資

需要が大幅に増加する半導体製造装置向け高周波電源の生産拠点であるダイヘン産業機器(株)の工場拡張や、「Green Solutions」推進のモデル工場としてグループ拠点で再エネ活用設備を導入する計画等で、合計100億円の投資を予定しています。また開発強化を図るため、新開発センターの建設も検討しています。



通常投資

通常投資は概ね減価償却の範囲内で、生産性向上や老朽化設備の更新を着実に進めています。

株主還元方針

ステークホルダーへの利益還元方針のうち、株主へは配当性向30%以上とすることを基本方針として、利益拡大に応じたリターン増加を目指しています。

2022年度の振り返り

2022年度業績

半導体関連投資が総じて堅調に推移したこと等により、全社の売上高は1,853億円で前期比15.4%の増収、営業利益は165億円で前期比16.7%の増益となり、売上高・利益ともに過去最高を更新しました。

営業利益の前期からの変動要因としては、部材価格の高騰による75億円のマイナス要因がありましたが、プラス要因として価格転嫁で24億円、為替影響で8億円、コスト削減の取り組みの成果拡大で27億円、売上高の増加に伴う利益増で48億円がありました。そこから研究開発費増強等に8億円を投じましたが、差し引きで24億円の増益となり、営業利益率は8.9%でした。

財務状況

2022年度の資産合計は、部材供給不足の対策に伴う棚卸資産の増加等により、2,127億円(前期末比179億円増)となりました。負債合計は、支払手形および買掛金や借入金の増加等により928億円(前期末比36億円増)となりました。純資産合計は、利益剰余金の増加に加え、為替換算調整勘定の増加もあり、1,199億円(前期末比143億円増)となりました。なお、自己資本比率は53.5%(前期末比+2.3% ポイント)で、目安としている50%以上を維持しています。

開発費[※]

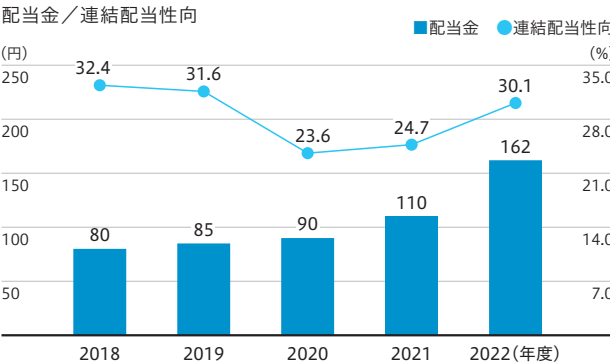
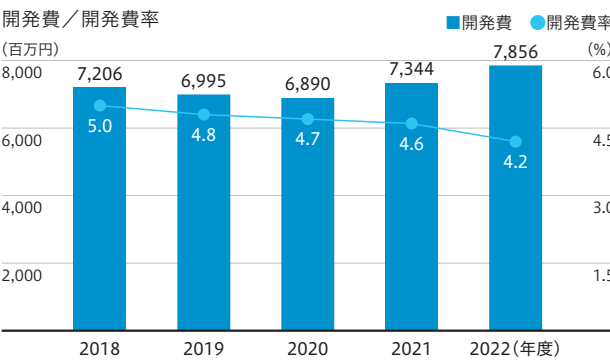
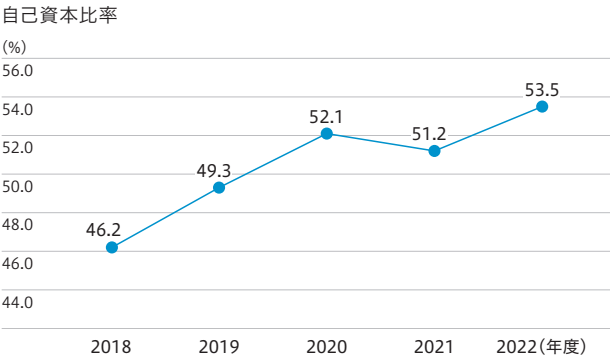
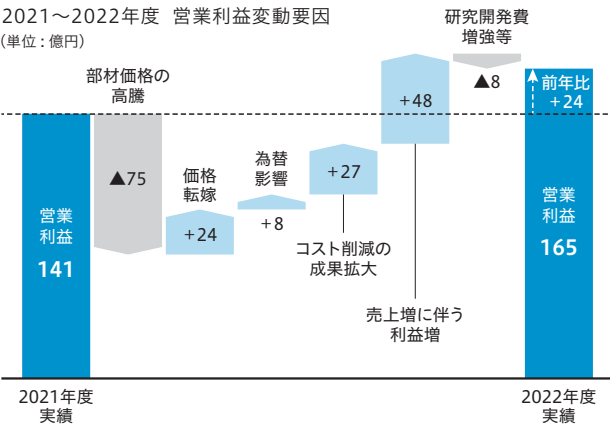
ダイヘン独自の価値(DAIHEN Value)を持つ製品の創出・市場投入に向け、グループ内の開発部門と相互に連携をとりながら、大学などの研究機関やお客様との共同研究も積極的に行い、技術シーズの蓄積と製品化を進めています。

2022年度は、主に中期計画の「Green Solutions & Tailored Solutions」に関する製品、システムの開発に取り組み、7,856百万円となり、開発費を2020年から毎年増加させています。

※開発費は研究開発費だけでなく特許料などの開発関連費用を含む。

株主還元

2022年度の配当金は、還元方針の配当性向30%を確保する1株当たり162円(中間配当金75円、期末配当金87円)とし、2017年から6期連続での増配となりました。



Green Solutionsの取り組み

脱炭素社会実現への貢献を目指し、再生可能エネルギー導入拡大に資する制御技術・機器で構成する各種エネルギー・マネジメント・システム(EMS)やEV普及に不可欠な充電インフラ機器の販売拡大と開発強化に取り組んでいます。

再生可能エネルギー導入拡大に資するエネルギーマネジメントシステム

「系統用蓄電システム」を一括納入

再生可能エネルギー発電は、季節や天候により出力が急変することで、系統における電力の需要と供給のバランスを崩し、電力供給に支障をきたす可能性があります。また、余剰電力の有効活用も課題となる中、それらを解決する施策として政府主導で「蓄電所」の設置が進められています。

当社は、国内で初めて国産蓄電池を活用した「系統用蓄電システム」を蓄電所「ユース白鳥バッテリーパーク(福岡県)」に一括納入しました。本システムは、当社独自の制御技術「Synergy Link」を搭載しており、再エネ発電電力の最大活用を実現するとともに、導入・運用にかかるコストを大幅に削減します。



系統用蓄電システム

「リユースバッテリーパッケージ」を販売開始

EVの使用済みバッテリーを再利用した産業用蓄電池と蓄電池用パワーコンディショナを一体化した自家消費型太陽光発電向け「リユースバッテリーパッケージ」を国内で初めて販売開始しました。

本製品は、新品バッテリー製造時のCO₂排出量を削減するとともに、原材料の調達困難・価格高騰などの課題を解決します。また、使用済みバッテリーを再利用することで導入コストを新品バッテリー使用時と比較して約30%低減します。さらに、冷却器をエアコンからファンに変更することにより電力使用量を低減し、ランニングコストの約90%低減を実現しました。



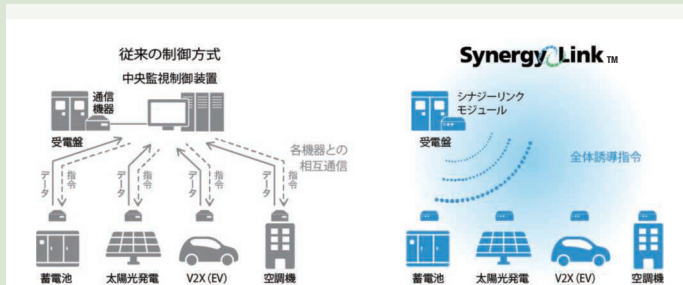
リユースバッテリーパッケージ

リユースバッテリー

産業用蓄電池には信頼性・耐久性に優れた日産自動車製EV「リーフ」の使用済みバッテリーを使用します。自家消費型太陽光発電向けの産業用蓄電池としては十分な性能を満たしています。



ダイヘン独自の自律分散協調制御技術「Synergy Link」



- 全体誘導指令に応じて各機器が自律的に出力値を最適化することで電力の最大活用が可能
- 従来の中央監視型の制御装置と比較し導入・運用にかかる大幅なコスト削減が可能
- 将来的な機器の増設・入替等のシステム拡張が容易

詳しい情報は当社ホームページをご参照ください。
<https://www.daihen.co.jp/decarbonization/ems/>



EV普及に貢献する充電インフラ機器・システム

国内初の機械式駐車場における自動ワイヤレス充電の運用実証を開始

機械式駐車場における自動ワイヤレス充電の運用実証を技研製作所と共同で開始しました。

本実証は「ワイヤレス充電システム」の受電側をトヨタ自動車製の超小型電動モビリティ「C+Pod」に、送電側を技研製作所が開発した超小型EV専用機械式駐車場「EVエコパーク®」に設置し、社員が通勤等でEVを使用した後、同駐車場にてワイヤレス充電を行う運用実証です。

今後、本実証で得られたデータ等の分析を通じてシステムの改良を行い、利用者の利便性向上につなげます。

さらに、将来的には、超小型EVから軽自動車・普通自動車などに展開していく予定です。

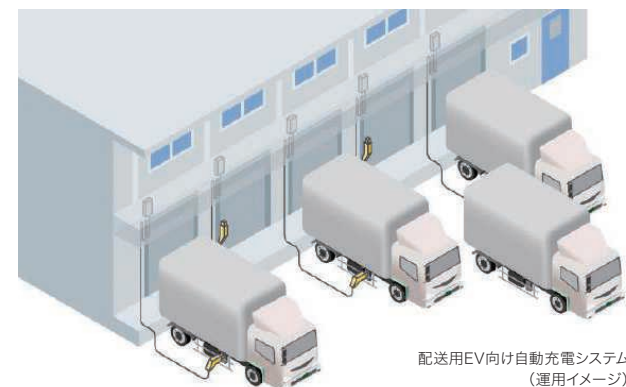


機械式駐車場でのワイヤレス充電の様子

国内初の配送用EV向け自動充電システムを販売開始

運送業界では、「ラストワンマイル」で使用する小型トラックやバンタイプの車両を中心にEVシフトが加速しています。しかし、配送に支障をきたさないためには充電切れを発生させず運用することが重要となります。

本システムは、デマンド目標値を自動設定するAI機能搭載により充電量を最適にコントロールすることで、一日の配送に必要な充電量を確保します。さらに、当社独自の制御技術「Synergy Link」が車両の運用に合わせ自動的に最大使用電力を抑制・平準化することにより、電気基本料金を最小化します。



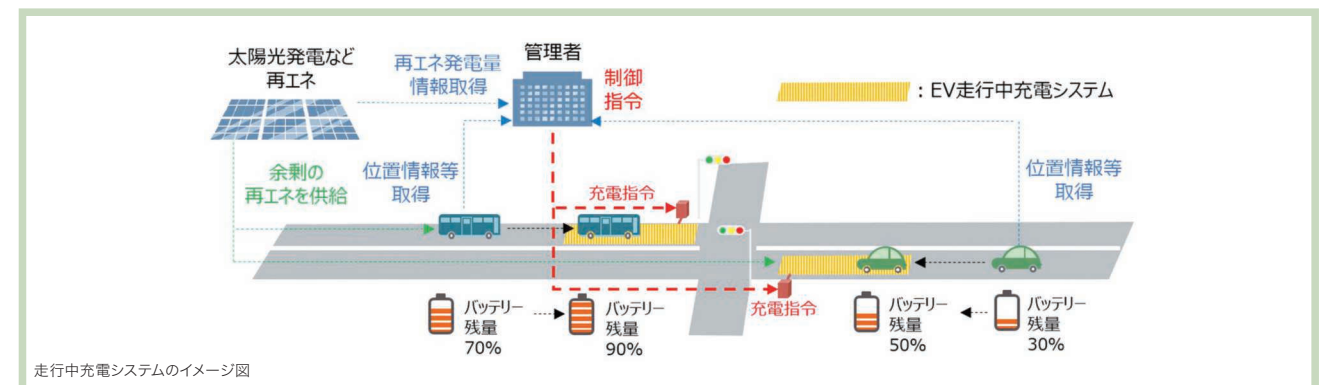
配送用EV向け自動充電システム
(運用イメージ)

走行中充電システム関連の取り組み

関西電力、大阪市高速電気軌道(大阪メトロ)、大林組、東日本高速道路(ネクソ東日本)と共同で技術実証を実施し、その充電インフラとして当社の走行中充電システムが採用されています。本実証では、2025年大阪・関西万博にお越しになる国内外からの来場者の会場アクセスや会場内周回に使用されるEVバス100台を導入するとともに、運行管理システムと一体となったEMSを構築します。

当社は、本実証を通じて、走行中充電システムの更なる改善を図るとともに、早期社会実装を目指した取り組みを推進しています。

なお、本事業は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業「グリーンイノベーション基金事業/スマートモビリティ社会の構築」として実施されます。



走行中充電システムのイメージ図

EV普及に貢献する接合機器



「Cold Spot Joining」定置式

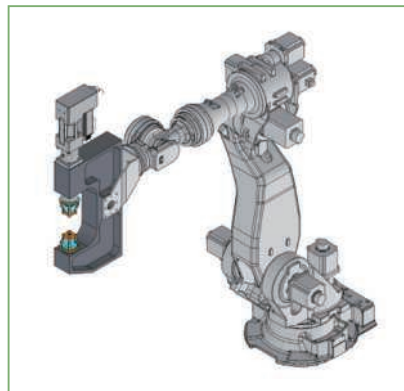
世界初の固相抵抗スポット接合システム
「Cold Spot Joining」を開発

世界中で加速するEVシフトにより、自動車の航続距離（1回の充電で走行できる距離）を延長させるため、車体軽量化が一つの課題となっています。その課題解決として、軽量素材である超ハイテン材やアルミ合金などの適用が進んでいます。しかし、これらの素材は従来から「難接合素材」と言われ、「高温」で溶融することにより発生する結合部分の強度低下や品質低下が原因となり溶接による接合を断念しているケースが多々あります。つまり、EVの航続距離の延長には、「低温域」での接合がカギとなります。

この課題を解決するため、当社は大阪大学接合科学研究所の研究成果である「固相抵抗スポット接合」に着目、産学連携による協働研究を経て、素材を溶かすことなく固体のまま低温域で安定した接合を実現する世界初のシステム「Cold Spot Joining (CSJ)」をこのたび開発しました。

CSJは、難接合素材の安定接合を可能とするだけでなく、異種金属同士の接合にも対応し、さらには従来比最大50%もの大幅な省エネも実現することから、様々なモノづくり業界での活用が期待されます。

2023年度には、定置式に加えロボット用のガンタイプも市場投入し、従来から自動車ボディ製造ライン等で幅広く使用されているスポット溶接の置き換えに対応します。



「Cold Spot Joining」ロボットガンタイプ

EV用モータステータコイル向け溶接システム「PLASMA JET TIG」を開発

EVの普及拡大に伴い、EVに使用されるモータの需要拡大が見込まれています。そのモータの主要構成部品の1つである「モータステータコイル（銅線）」の溶接に最適な溶接システム「PLASMA JET TIG (PJT)」を開発しました。

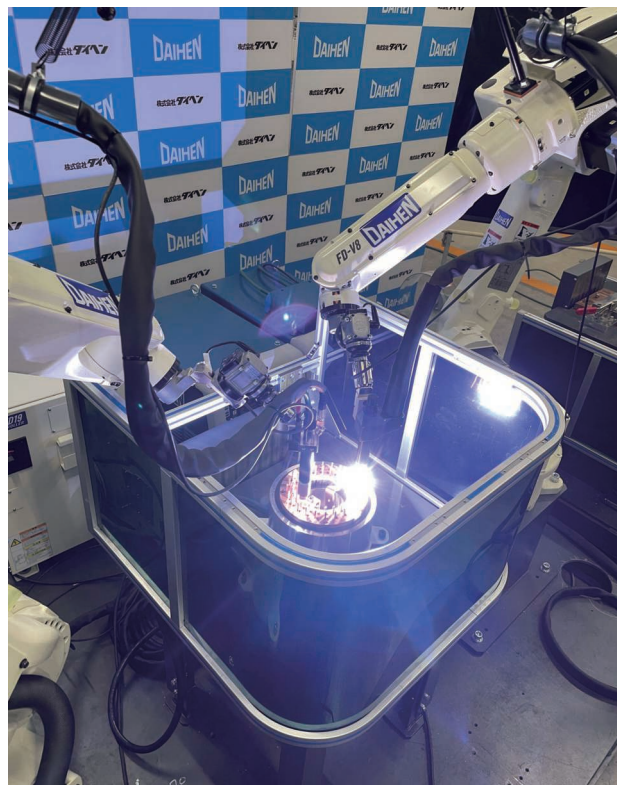
モータステータコイルの製造においては、精密かつ高エネルギー・高品質な溶接が求められます。しかし、精密さと高エネルギーで注目を集めるレーザー接合システムではエネルギー密度が高すぎるため、溶接箇所への溶け残りやコスト面で課題がありました。

PJTは従来のTIG溶接と比べてエネルギー密度の高いアークにより、銅などの熱伝導性が高い材料でも短時間で高品質な溶接が可能です。さらに入熱範囲を広げたことで接合部に生じる段違いやギャップ等に対する接合裕度も拡大し、溶け残りの無い安定した溶接を実現します。

また、当社製品「Welbee-TIGシリーズ」に、制御装置と専用のトーチを組み合わせたシンプルな構成により、レーザー接合システムと比較し導入コストを約60%削減するとともに、電力消費などにかかるランニングコストも大幅に（約80%）削減します。



モータステータコイル



「PLASMA JET TIG」による溶接の様子

Tailored Solutionsの取り組み

モノづくりに携わる様々な立場の人々に寄り添い、それぞれが抱える課題に応じた最適な解決手段の提供を志向し、労働力不足解消、3K作業からの解放、働き手や働き方の多様化等の社会課題解決はもとより、狭隘スペースでの自動化、設備管理の負担軽減、作業教育者の不足解消等に資する機器・システムの開発を進めています。

工場自動化に貢献する産業用機器・ロボット

アーク溶接に最適な「協働ロボット」を開発

労働力不足の解消・働き方の多様化など社会課題への対応や更なる生産性向上などを目的として、様々な分野で産業用ロボットの導入が進められています。

しかし、ロボットを設置するためのスペース確保や安全柵設置のためのコストなどにより導入を諦めるケースも少なくありません。そこで、安全柵を必要とせず人と同じ空間で作業させることが可能な協働ロボットに注目が集まっています。

当社の協働ロボットは、人と近い所で作業し、人と接触すると停止する安全性を持ちながら、従来のロボットと同等の高い軌跡精度・剛性・耐久性を兼ね備えたアーク溶接に最適なロボットです。コンパクトな機体で、台車などに載せて現場まで移動させることで造船など大型構造物への溶接をはじめ様々な現場で活躍します。

今後は、溶接用途以外の品そろえも拡充していく予定です。



台車への搭載イメージ

多様な搬送形態に適用できる自律搬送台車「AiTran」を開発

モノづくりの現場では、製造工程の自動化だけでなく、工程間搬送をはじめとする工場内の搬送自動化ニーズが高まっています。特に近年ではガイドテープの設置が必要な無人搬送台車（AGV）や無人フォークリフト（AGF）に代わり、容易にルート設定が可能かつガイドレスで走行する自律搬送台車（AMR）に注目が集まっています。しかし、従来のAMRは特定の用途に特化した仕様が主流で、自動化できる範囲も限定的です。

当社が開発したAMR「AiTran」は、業界初となる積載型・けん引型・フォーク型の3種類で幅広い用途に対応し、狭い通路での障害を回避しつつ小回りの利く搬送が可能です。

積載型
「AiTran Lift」

- 搬送物を積んだパレットや金属加工品などを、本体上面に載せて搬送
- 天板を昇降させるリフトアップ機構を標準装備

けん引型
「AiTran Trailer」

- 搬送物を積んだカゴ台車などをけん引、搬送
- カゴ台車をカメラによる精密位置決めで正確に自動で連結

フォーク型
「AiTran Fork」

- 床面に直置きされた荷物やパレットを持ち上げて搬送
- 全方位移動で、フォークリフトにはできない取り回しを実現

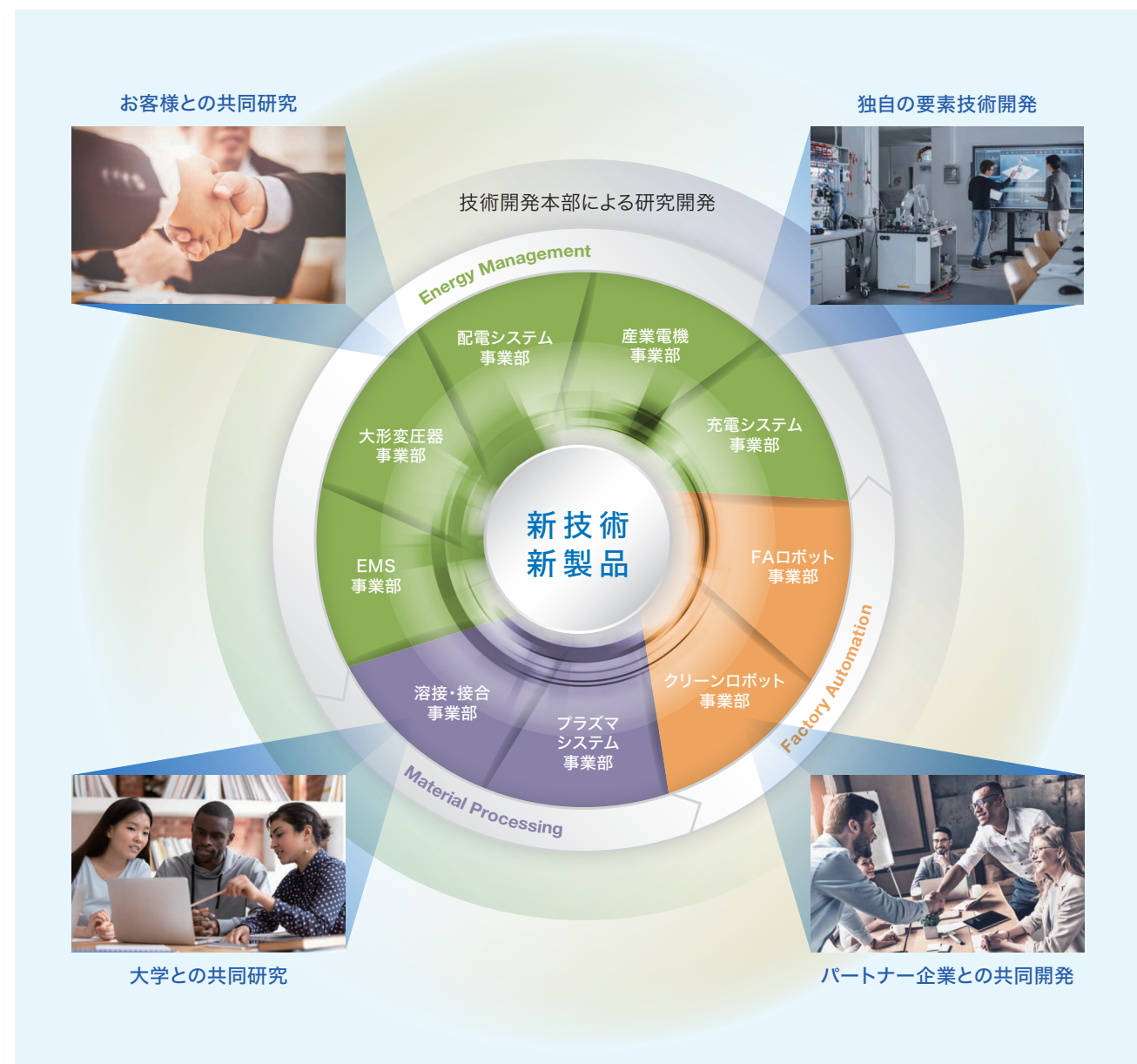
研究開発体制

ダイヘンは、長年にわたり蓄積してきたエネルギー変換技術・制御技術を軸に、世の中のお役に立つ、数多くの製品開発に取り組んでまいりました。今後はさらに研究開発活動を強力に推進し、社会課題に真正面から向き合う「研究開発型企業」を目指します。

その実現にあたり、売上高に占める開発費比率6%を目標に掲げ、重要な分野に対し積極的に資金を投入することに加えて、大学・研究機関・パートナー会社等、「外部との連携・協力体制の

構築」を通じた開発の強化・スピードアップを図っています。

また、次代の柱となる新規事業の創造・育成を推進するため、全社横断的な開発体制を導入しています。既存事業に関する専門的な開発を行う各事業部の研究・開発部門とは別に、「技術開発本部」を設け、既存事業部の事業領域に属さない分野での新技術・新製品の開発・事業化および、当社グループ全体の開発機能の強化・支援を行っています。



当社ロボットを活用した生産自動化の取り組み

FAロボットの生産自動化（兵庫県 六甲事業所）

FAロボットの生産拠点である六甲事業所の工場では、年間1万台以上のロボットを生産し世界中のお客様に提供しています。その生産工程においては、既に自動化率90%以上を達成しており、現在も100%を目指し更なる自動化に取り組んでいます。

工場では、組み立てをはじめ材料搬入・品質検査・工程間搬送等、あらゆる工程を自動化することでロボットの品質安定化や生産効率化を実現しています。2015年3月時点では29人体制

で年間約7千台を生産していましたが、自動化実施後の2022年12月時点には約3分の1となる10人体制で1万台以上の生産を可能としました（人件費換算では年間3億円以上の削減効果）。

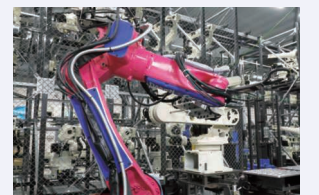
また、ロボットの導入を検討されているお客様をお招きして、実際に「ロボットがロボットをつくる工場」を見ていただき、お客様が抱える様々な課題に対する最適な解決手段の提案につなげる等、営業活動にも活用しています。

組み立て工程



複数ロボットでの組み立て工程

組み立て工程では、複数台の当社製ロボットがスムーズに連携を取り、次々とロボットを組み立てます。ロボットのツールを自動で交換し1台で複数の役割を担うことで、最小限のロボット台数で最大のパフォーマンスを発揮します。高精度なビジョンセンサや力覚センサを用いて、ハンドリングや嵌合（はめ合い）、ねじ締め、ロボットの性能維持に不可欠なグリスの給油についても自動化を実現しています。



グリス給油システム

※組み立て工程には、当社がプラチナパートナー契約を締結している「セレッソ大阪カラー」のロボットを使用しています。

工程間搬送

全方位移動と障害物の自動回避が可能な当社製の自律搬送台車（AMR）「AiTran」をはじめ、無人搬送台車（AGV）や無人搬送フォークリフト（AGF）を導入し、工程間搬送を自動化しています（工程間搬送は自動化率100%を達成）。

さらに、当社製のワイヤレス給電システム「D-Broad」搭載により各種搬送機への充電を全自動化しており、各搬送機器の連続稼働を可能としています。

その他にも、材料搬入・機械加工部品の仕上げ（バリ取り）・ボルトパレタイジング等のロボットの組立前工程やロボットの精度向上に不可欠な校正（マスタリング）作業等、品質検査工程も自動化しています。



自律搬送台車（AMR）「AiTran」



ワイヤレス充電システム「D-Broad」

変圧器・開閉器ケースの生産自動化（香川県 株式会社南電器製作所）



柱上変圧器ケースの溶接自動化工程

変圧器ケースを生産する当社関係会社の株式会社南電器製作所（香川県）では当社製ロボットを多数導入しており、他の専用設備を組み合わせることでケースの溶接やプレス加工等、様々な工程を自動化しています。高精度なレーザーサーチを用いた溶接ロボットをはじめ、ハンドリングロボットや部品供給コンベアー等の導入により品質安定化と生産効率化を実現しています。

環境への取り組み

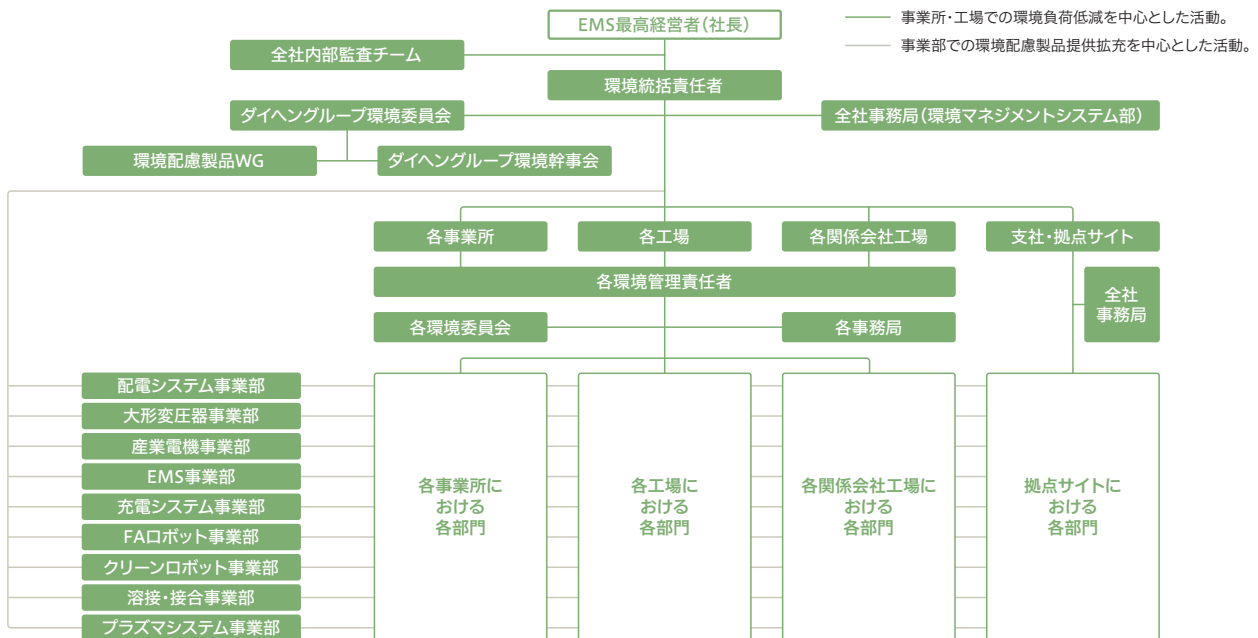
環境保全を経営の最重要課題の1つと考え「環境経営」に取り組んでいます。環境保全活動を通じて、ステークホルダーの皆様方との関係強化を図るとともに、脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現に貢献します。

ダイヘングループ環境方針

基本理念	ダイヘングループは、環境保全を経営の最重要課題の1つと考え、「みんなの幸せ同時達成」を会社の目的として、持続可能な社会の実現に向けた社会課題の解決に積極的に貢献する企業を目指します。
行動指針	ダイヘングループは基本理念のもと、以下の指針に基づき、各分野でグローバルに事業活動を展開することで、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現に貢献していきます。
1 事業活動に伴う環境負荷の低減	製品の設計、開発、調達、製造、物流、使用、廃棄に至る全ての段階において、次の活動に取り組みます。 1 社会課題の解決に資する製品開発を推進する。 2 省エネルギー活動を推進する。 3 省資源と、廃棄物削減・リサイクルを推進する。 4 環境負荷化学物質の使用量を削減する。 5 グリーン調達を推進する。
2 法的及びその他の要求事項の順守	環境に関わる法的及びその他の要求事項を順守するとともに、自主的な管理基準を設定・管理して、環境汚染の予防と環境保護に努めます。
3 環境目標の策定と定期的見直し	ダイヘングループの各部門は環境目標を定め、環境保全活動を推進します。また目標は定期的に見直し、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステム(EMS)の継続的改善を図ります。
4 環境意識の高揚	環境教育を充実し、組織に関わる全ての人への環境方針の理解を深めるとともに、環境に関する意識の向上を図ります。
5 ステークホルダーとの関係強化	環境情報をステークホルダーに対して速やかに、わかりやすく発信するとともに、積極的なコミュニケーションを行い、相互理解と信頼関係強化に努めます。

環境マネジメントの推進体制

当社社長を「EMS^{※1}最高経営者」、環境担当役員を「環境総括責任者」とする実行体制を敷くとともに、環境方針の審議・決定と具体的な活動計画の策定を行う「ダイヘングループ環境委員会」を設置し、環境保全活動の強化を図っています。具体的な活動としては、「環境配慮製品WG^{※2}」「ダイヘングループ環境幹事会^{※3}」によるグループ横断的な連携を図りながら、各事業所・工場と各事業部が、「事業活動に伴う環境保全」と「環境配慮製品・サービスの企画・開発」の両面に取り組んでいます。



※1 環境マネジメントシステム(EMS-Environmental Management System)。事業者が環境に関する方針を設定し、その達成に向けた取り組みや維持・改善するための仕組みのことをさす。
※2 当社製品の開発を担う各技術部門の責任者で構成する組織。環境配慮製品の社内認定制度に基づく申請案件、認定基準の審議・決定と開発の進捗管理等を実施する。
※3 各事業所・工場、各事業部の環境活動の計画・実績・外部環境情報等の共有を通じて課題抽出を行い、その解決策を議論し実行する組織。優れた取り組みを水平展開することで、グループ全体のパフォーマンス向上につなげている。

環境計画と実績

中長期的な環境目的と目標を「環境自主行動計画」として定め、環境保全に努めています。2021～2023年度の第7期環境自主行動計画では、CO₂排出量(Scope1+2)、水使用量削減等の環境負荷削減目標を設定し、活動を進めています。

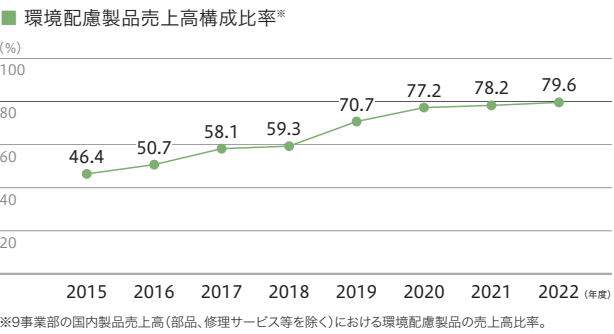
ダイヘングループ第7期環境自主行動計画 2022年度活動実績(抜粋)

会社目的	ステージ	方針	2022年度目標	2022年度活動結果	2022年度活動内容	自己評価
みんなの幸せ同時達成	プロダクト	環境配慮製品の販売拡大	・環境配慮製品 売上高構成比率79%以上	売上高 構成比率 79.6%	・環境配慮製品：32機種 ・環境配慮製品売上高：111,453百万円 全製品売上高：139,988百万円	○
		サプライチェーンにおける地球温暖化防止(Scope3・カテゴリ11)	・CO ₂ 排出量原単位(Scope3・カテゴリ11) 2021年度比4%以上削減	売上高原単位 削減率6.9%	・CO ₂ 排出量原単位(Scope3・カテゴリ11)：37.76t・CO ₂ /百万円 (参考)CO ₂ 排出量(Scope3・カテゴリ11)：6,997千t・CO ₂	○
		CO ₂ 削減貢献量の拡大	・CO ₂ 削減貢献量 30千t・CO ₂ 以上	貢献量 22.2千t・CO ₂	・CO ₂ 削減貢献量の算定	×
	プロセス	地球温暖化防止(Scope1+2)	・CO ₂ 排出量原単位 2021年度比4%削減	削減率 12.0%	・CO ₂ 排出量原単位：0.110t・CO ₂ /百万円 (参考)CO ₂ 排出量：20,466t・CO ₂	○
		生物多様性保存	・水使用量原単位 2021年度比6%削減	削減率 10.5%	・水使用量原単位：0.68m ³ /百万円 (参考)水使用量：126,490m ³	○
		廃棄物削減	・廃棄物排出量原単位 2021年度比3%削減	削減率 5.2%	・廃棄物排出量原単位：5.07kg/百万円 (参考)廃棄物排出量(有価物除く)：939.8t	○
		大気汚染防止	・PRTR指定化学物質大気排出量を 2020年度比で悪化しない	削減率 29.5%	・PRTR指定化学物質大気排出量：54,575kg	◎

ダイヘングループ第7期環境自主行動計画 2022年度活動実績(全体)については当社ホームページをご参照ください。

環境配慮製品の販売拡大

環境負荷の少ない製品を可視化するため独自の「環境配慮製品認定制度」を設け、生産時・使用時それぞれにおいて環境負荷低減に効果がある製品を「環境配慮製品」として認定・開示しています。当社は「環境配慮製品」の開発・拡販に積極的に取り組んでおり、全社の製品売上高における売上構成比率は年々向上しています。



CO₂削減貢献量の拡大

当社製品のうち、「再生可能エネルギーの活用拡大」「エネルギーマネジメントシステム(EMS)」「EVの普及」に関連する製品について、再生可能エネルギーの創出量および化石燃料の削減量をCO₂換算したものを「CO₂削減貢献量」と定義し、目標値の設定および実績値の算定を行い、削減貢献量の拡大に取り組んでいます。システム・パッケージの一部に当社製品が組み込まれている場合には、製品全体の価格に占める当社製品価格の割合を全体の年間CO₂削減量に掛けて算出します。なお、2022年度のCO₂削減貢献量は、22,177t・CO₂でした。

ISO 14001 認証の取得

当社グループ全体での環境保全活動を推進するため、国際規格ISO 14001(2015年度版)に適合した環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、継続的な改善に努めています。現在、当社「環境方針」を共有する全ての国内生産工場・支社・営業所で認証取得を完了しており、海外グループ会社においても6社で認証を取得しています。

内部監査

当社グループ全88部門において内部監査を実施し、環境マネジメントシステム(EMS)の要求事項に適合した状態かどうか監視・検証しています。2022年度においては、監査所見191件(不適合2件、観察事項104件、改善の余地85件)を発見し、改善処置を実施しました。

重点項目

- 1 事業活動・環境状況の変化にタイムリーに対応しているか
- 2 法的要求事項の内容を理解できているか、またそれに対するアクションに逸脱はないか
- 3 状況に応じた環境目標・管理プログラムを設定し継続的に運営しているか
- 4 法的要求事項の対応不備について実施した水平展開に対し、運用・定着状況は正常か



内部監査実施の様子

TCFD提言への対応

当社はTCFD※1提言に賛同し、気候変動・環境問題への対応を強化していくとともに、気候変動のリスク・機会等、TCFDが提言する情報開示フレームワークに沿った開示充実に努めてまいります。

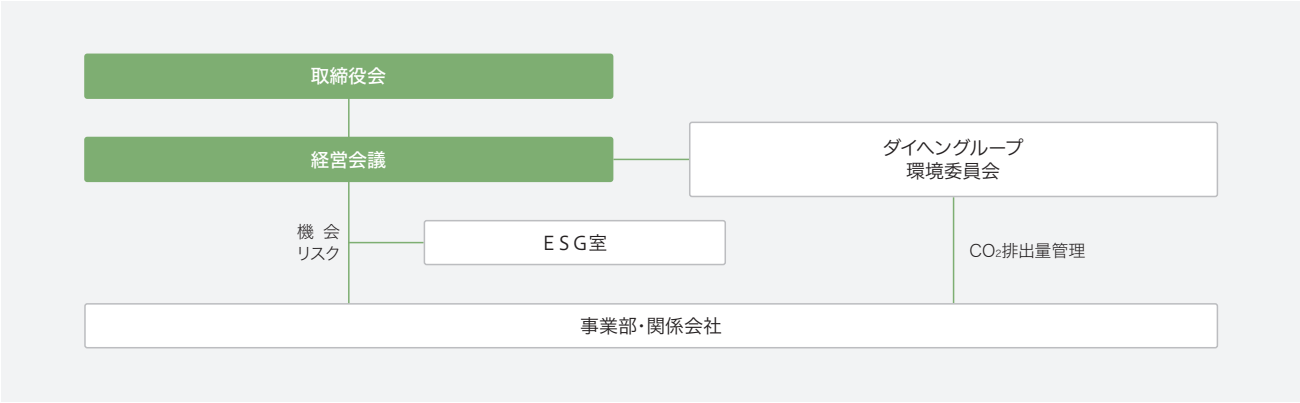


※1 TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures):金融安定理事会(FSB)により設置された気候関連財務情報開示タスクフォース。

【TCFDに係るガバナンス・リスク管理体制】

気候変動への対応は重要な課題との認識のもと、ダイヘングループ環境委員会の活動に加えてESG室を設置し、リスク・機会や事業戦略等を踏まえた全社計画ならびに財務影響の分析を進めています。

■ 気候関連リスク管理体制



【戦略】(気候関連の主なリスク・機会と対策)

気候変動によるリスク・機会とその対応方針について国際エネルギー機関(IEA)と気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が示す「2℃シナリオ・4℃シナリオ※2」の二種類により影響を想定しています。その概要は下表「気候関連の主なリスク・機会と対応の方向性」の通りです。

※2 2℃シナリオ:気候変動を抑止するために規制が強化されるが、世界の平均気温の上昇幅が2℃未満に抑えられるシナリオ。
4℃シナリオ:気候変動への対策が進まず世界の平均気温が4℃程度上昇し、異常気象の発生が増加するシナリオ。

気候関連の主なリスク・機会と対応の方向性

リスク・機会の種類		顕在化時期※3	影響度	主な取り組み
-----------	--	---------	-----	--------

【2℃シナリオ】

移行リスク	政策・法規制	●規制による化石燃料の供給減少、グリーン電力等への需要集中・素材需要の偏り等需給バランス悪化に伴う調達コスト増加や調達困難化、生産の停滞 ●炭素税や排出権取引の導入による燃料・資材の調達コストの増加 ●規制強化に伴う製品の設計変更や生産設備対応等のコスト増加	短期～長期	中	●環境配慮に関する研究開発の強化 ●環境配慮設計の推進 ●サプライチェーンの強化・代替部品への切替 ●再生可能エネルギーによる自家消費発電設備の導入検討 ●環境計画により目標を設定し、目標に従いCO2排出量、電力消費量を削減
	技術	●環境配慮技術に対する研究開発コストの増加 ●環境配慮製品の開発遅れによる販売減少	中期～長期	大	●大学等の研究機関、他企業等との共同研究、連携による開発強化、開発効率向上 ●サーキュラーエコノミー※4ビジネスの推進 ●環境情報開示の充実
	市場	●イノベーションによる当社製品の市場縮小、喪失 ●対応の遅れによる顧客からの信頼低下、資金調達コストの増加	中期～長期	中	
機会	製品・サービス	●環境配慮技術の開発先行による事業機会拡大 ●環境配慮製品の需要拡大 ●レジリエンス目的の設備投資需要拡大	短期～長期	大	Green Solutionsの推進(P.15 - 17参照) ●再生可能エネルギー導入に貢献する製品開発(再生可能エネルギー対応エネルギーマネジメントシステム等) ●EVの普及・拡大に貢献する製品開発(充電インフラ、EV軽量化対応接合機器等)

【4℃シナリオ】

物理リスク	急性	●激甚化する気象災害による操業停止・災害復旧コストの増加、サプライチェーンの不安定化	短期～長期	大	●BCPの整備、サプライチェーンの強化、部品調達リスク対策の強化(設計変更を含む複数購買)
	慢性	●疾病の蔓延、社員の健康被害 ●海面上昇による拠点の浸水リスクへの対策コストの増加	中期～長期	小	●生産設備等の自動化・省人化・省エネルギー化 ●事業所移転の検討

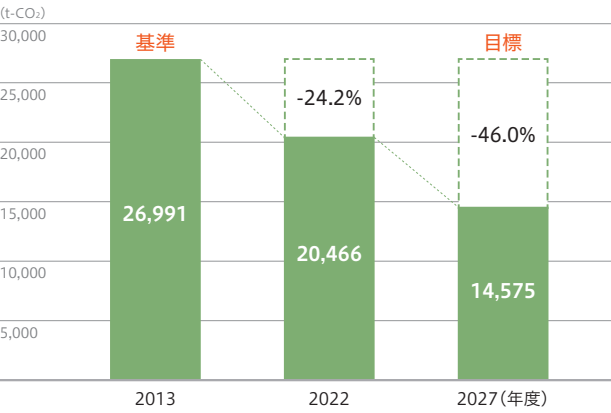
※3 顕在化時期:短期3カ年、中期2030年まで、長期2050年までとして想定。
※4 サーキュラーエコノミー:3Rに加えて、さらに廃棄物を生み出さない設計、シェアリングサービス等により付加価値を生み出す経済活動。

【指標と目標】

CO₂排出量(Scope1+2) : 2027年度 2013年度比 46%削減
CO₂排出量(Scope3・カテゴリ11) : 2030年度 2020年度比 25%削減

自社におけるCO₂排出量(Scope1+2)

CO₂排出量(Scope1+2)の削減活動として、各事業所における省エネの取り組みとともに、昨年には主要拠点に太陽光発電設備を導入する計画を策定しました。特に十三事業所と六甲事業所については、将来的に100%再生可能エネルギーで操業することを計画する等、積極的に脱炭素に向けた取り組みを進めていきます。これに伴い、排出量削減目標を従来は日本政府目標(2030年CO₂排出量2013年比46%削減)と同等としていましたが、2027年度に2013年度比46%削減へと前倒しました。なお、2022年度のCO₂排出量(Scope1+2)は20,466 t-CO₂であり、2013年度の排出量から24.2%削減しています。



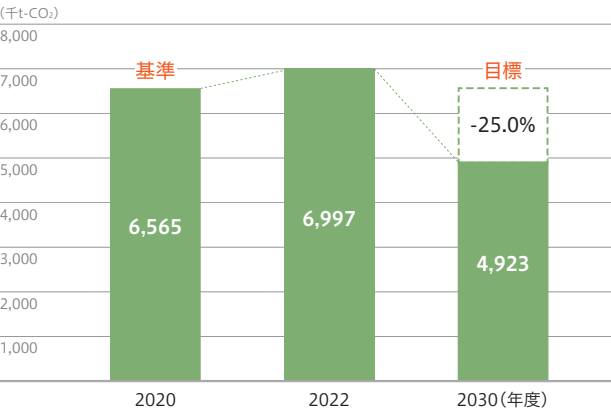
対象範囲:(株)ダイヘン(十三事業所、六甲事業所、三重事業所、千歳工場、兼平工場)および関係会社生産拠点(鳥取事業所、大分事業所、松戸事業所、恵庭事業所、弘前事業所、香川事業所)、海外生産拠点(牡丹江OTC溶接機、OTC機電(青島)、OTC DAIHEN Asia、DAIHEN ELECTRIC、ダイヘンOTC機電(北京)、ダイヘン精密機械(常熟))



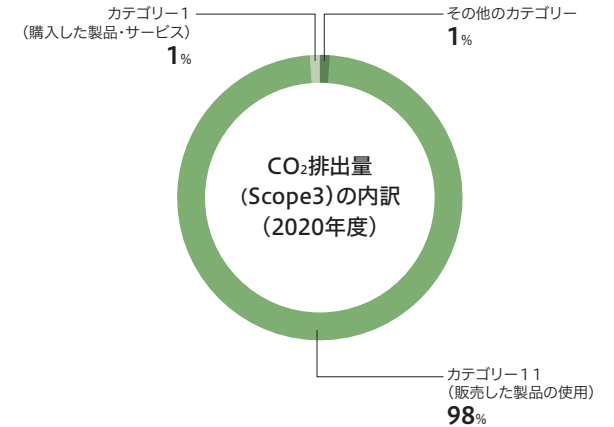
太陽光発電設備(大分事業所)

サプライチェーンにおけるCO₂排出量(Scope3)

2020年度からサプライチェーンにおけるCO₂排出量(Scope3)の算定を開始し、その内訳としてはカテゴリ11(販売した製品の使用)が全体の98%を占めています。そのため、カテゴリ11を重点対象として2030年度に2020年度比25%削減を目標として設定しています。なお、2022年度のCO₂排出量(Scope3・カテゴリ11)は売上高の増加に伴い、6,997千t-CO₂と増加しましたが、中期計画で取り組んでいる「Green Solutions」の推進により、削減目標達成を目指します。



対象範囲:(株)ダイヘン(国内9事業部)



【今後のTCFD提言への対応】

気候変動によるリスク・機会の再検討および将来の社会像の想定等から、当社にとって影響が大きい項目について財務影響の試算を含めた分析を実施し、事業戦略に反映していく予定です。

人材戦略

社会課題の解決に積極的に貢献する企業として発展し続けるためには、その原動力となる「人材」が当社グループの価値観・行動指針を共有し、価値ある製品・サービスを創出し続けなければならないと考えています。そのため人材戦略における5つの重点課題を設定し、それらの実現に向けた人材の確保をはじめ、社員の成長促進、ダイバーシティの推進、ウェルビーイングの向上等に取り組んでいます。

人材戦略の重点課題(2023年度～2026年度)

- (1)開発力の強化

・社員の博士号取得支援強化
・最先端技術を学んだ優秀な理系人材の採用強化
- (2)マネジメント力の強化

・次世代経営人材候補者の選抜および育成
- (3)女性活躍推進

・女性社員および女性社員の部下を有する上司の意識改革
・仕事と育児の両立支援強化
- (4)社員エンゲージメントの向上

・エンゲージメントサーベイの定期的な実施および総合評価における肯定的回答率の向上
- (5)安全・健康確保の促進

・職場に潜む危険の見える化およびリスクアセスメントの強化
・ICT活用による社員の健康に対する意識の向上

人材育成

人材育成方針

ダイヘンは、サステナビリティ経営に必要不可欠な人材育成方針としての重点課題を「経営人材の育成」「女性活躍推進」「若手社員の育成」と定め、人的資本の開発・活用による企業価値向上に取り組めます。

経営人材の育成

次世代経営幹部候補者を選抜し、特別な成長機会(高難度・専門外の業務、海外転勤等)を優先的に与えることで、幅広い知識・経験で視座を高め「次世代リーダー」としてふさわしい人材となるよう育成しています。また、選抜者同士のつながりを形成することで、より広い視野と高次元での全体最適の意思決定力を養っています。

個人の能力向上支援

社員の学ぶ意欲を喚起するため、業務に関連する(活かせる)資格の取得を奨励する補助制度を導入しています。

「資格取得支援制度」では、会社の認めた資格を取得した社員に対して、報奨金の授与や資格取得に関わる費用の補助を行っています。また、「MBA・博士号取得支援制度」を導入し、MBAや博士号の取得を志す社員に対しては教育にかかる費用の全額を会社が負担し、取得した暁に報奨金を授与するとともに奨学金の返還支援も実施しています。

若手社員の育成

若手社員に対して、当社がこれまで受け継ぎ大切に、これからも伝えていくべき価値観・行動指針等の共有に努めるとともに、自身のキャリア形成に主体的に取り組む、自律して積極的に能力の深耕に励む意識を醸成しています。

■ 教育体系図

一般職層群	指導・管理職層群
若手社員の育成 ●新入社員研修 ●キャリア自律プログラム ●メンター制度 (メンター研修、フォローアップ研修) ●指導職候補者研修	経営人材の育成 ●次世代経営幹部研修 ●上級管理者研修 ●マネジメント研修 ●初級管理者研修 ●幹部候補者研修
女性活躍推進 ●キャリア開発研修 ●女性活躍研修 ●女性管理職研修 ●女性活躍研修 ●管理職層(男女)への女性活躍推進教育	

ダイバーシティ

少子高齢化に伴う労働人口減少やグローバル化進展等の環境変化への対応策としてだけでなく、性別・国籍等に拘わらず「全ての社員が自身の能力を十分に発揮し活躍することが事業発展に必要不可欠である」と考え、ダイバーシティの推進を掲げ、様々な背景・価値観を持つ人が制約を負わず活躍できるよう、働きやすい環境や制度の構築に努めています。

女性活躍推進

女性社員が自分らしく成長・活躍できるように、入社6年目までの女性社員には切磋琢磨し合える仲間やロールモデルとなる先輩との出会いの場を、指導職層以上の女性社員にはリーダーとしてのキャリア構築に対する意識向上の場を設ける等、各階層に合った育成機会を設け研修内容を充実させています。

また、女性社員が自分自身のキャリア開発の大切さに気づき、仕事を通じて会社生活を充実させることへのモチベーションアップを図る機会として、2023年4月に女性社員対象の講演会を企画・開催しました。講演会にはSWCC株式会社 代表取締役社長 長谷川隆代様をお招きし、「挑戦する女性たちへ」をテーマにご講演いただきました。当社および趣旨に賛同した取引先企業11社の女性社員総勢170名が参加し、講演後は活発な質疑応答も行われる等、女性が輝く社会の実現に向けて認識を深める場となりました。

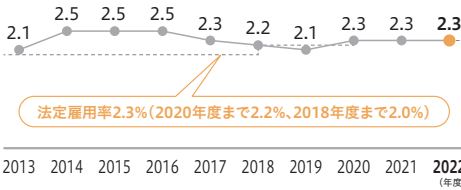


講演会の様子

障がい者雇用

法定雇用率を上回る障がい者雇用を促進していくという社会的使命を認識し、継続的に障がい者を雇用しています。1982年には、(株)ダイキを設立して特例子会社の認可を受け、身体・知的障がい者の雇用および働きやすい環境の整備に努めています。

■ 障がい者雇用率の推移



働きやすい職場づくり

業務改革による生産性の向上

生産自動化の推進等を通じて単純作業を撲滅する「生産性向上活動(トータル・コストダウン活動)」に当社グループ全体で取り組み、残業時間の削減に努めています。また、RPA*を積極的に導入し、定型事務作業の自動化を推進しています。

※人がパソコンで行う定型作業を自動化するソフトウェア型ロボット(Robotic Process Automation)

仕事と家庭の両立支援制度の導入

社員が仕事と育児・介護を両立し、安心して働くことができる、様々な支援制度を充実させています。事由に応じた休業制度をはじめ、短時間勤務制度や週3日・4日の短日勤務制度等、育児・介護に専念しながらも柔軟に働ける環境を整備しています。また、2022年4月に改正された育児・介護休業法への対応や、妊娠・出産の申し出をした社員を対象とする育児休業意向確認の制度導入に加え、各種制度の全社員への周知を行う等、利用しやすい職場風土の醸成にも取り組んでいます。

「しごと子育て両立支援プロジェクト」の推進

子育てしながら仕事をする社員をさらに支援するため、「しごと子育て両立支援プロジェクト」として家族手当の充実(扶養家族2人目以降等)や育児休暇取得者の収入補填、企業内保育所の設置、子供の保育所費用の補助等の諸施策を講じています。

「ダイヘンハートフェスティバル」の開催

社員と家族の絆を深める運動会「ダイヘンハートフェスティバル」を開催しています。

2022年度は徹底した新型コロナウイルス感染対策のもと、当社をはじめ国内グループ会社・協力会社の社員とその家族(約2,000名)が参加し、ミニ駅伝・リレー・綱引き等の事業部対抗競技、全員参加の抽選会等のイベントを通じて交流を深めました。



ダイヘンハートフェスティバル

その他の主な取り組み内容

- エンゲージメントサーベイの実施
- 一斉退社デーの設定等による就業時間への管理意識の向上
- 勤務間インターバル制度の導入
- シフト勤務制度の導入
- 様々なレクリエーション活動の実施

安全衛生・健康

労働安全マネジメントシステムのもと、グループ安全衛生方針を定めるとともに、労働安全衛生に関する全社的な体制構築や教育を通じた社員への意識づけ等に継続的に取り組み、労働安全衛生活動レベルの向上を図っています。また、社員の健康促進を図ることを目的として、ダイヘン健康保険組合とも協力し健康診断や感染症拡大防止対策の実施等、様々な取り組みを推進しています。

グループ安全衛生方針

- 安全は、会社の目的「みんなの幸せ同時達成」の大前提である。
- 「安全と健康は全てに優先する」を基本方針として、グループ一丸となって推進する。
- 管理監督者が自ら率先して職場における安全衛生活動を推進し労働災害防止に努めるとともに、全員参加による安全衛生活動の徹底により、法規制等を順守し、自分の安全と健康は自分で守るという自己管理の意識の醸成を進めることで、健康で安心して働ける職場環境を実現する。

安全衛生リスク管理体制

ダイヘングループ安全衛生委員会を設置し、当社グループ全体の活動方針を審議・決定しています。その後、各事業所・関係会社にて、活動方針をもとに年間の活動計画を策定し、取り組みを推進しています。

主な取り組み内容

- リスク管理台帳を用いた重大リスクの管理、本質安全化の促進
- 日常作業に加え、非日常作業についてのリスクアセスメントの実施
- グループ安全衛生委員による拠点間の交換パトロール
- 外部専門家を交えた職場の安全巡視

安全衛生教育の推進

社員一人ひとりの危機管理能力を高めて当社グループの安全レベルを向上するため、継続的に安全衛生教育を実施しています。

主な教育内容

- 6S教育
- リスクアセスメント研修
- 危険予知訓練(KY研修)
- 管理監督者向け教育
- セルフケア研修
- ラインケア研修
- 社有車安全運転教育(交通KYトレーニング)

感染症拡大時における取り組み

社員と家族の安心・安全を最優先に考え、インフルエンザ等の感染症拡大防止のための対策を講じています。2020年から2022年に世界中で大流行した新型コロナウイルスに対しては、以下の取り組みにより感染拡大抑制に努めました。

主な取り組み内容

- 社員の日々の体調や発熱時等における行動履歴の一元管理
- ワクチン職域接種の実施
- 職場における感染拡大防止対策(消毒、アクリル板の設置、社員食堂の時間差利用等)
- WEB会議システム・在宅勤務の活用推進

ダイヘン健康保険組合との取り組み

当社・国内グループ9社の社員が加入しているダイヘン健康保険組合との協力体制を構築し、社員・家族の健康促進を目的とした様々な取り組みを実施しています。

主な取り組み内容

- ICTを活用した健康管理・啓発イベントの実施
- 節目健診の実施(年度内に40歳・50歳・60歳を迎える被保険者を対象)
- 専門家へ相談できる体制の構築(医師・保健師・看護師・メンタルカウンセラー等)

地域貢献

「幸せの目標値」の1つとして、ダイヘングループ主要拠点がある地域の子どものための福祉を目的に、営業利益の1%を毎年寄付しています。寄付金は、地元地域の自治体・社会福祉協議会等と相談して子ども食堂の運営費や制服等の学用品購入補助、老朽化した設備の更新等に活用いただいています。

その他にも地域の皆様との交流を深め、より良い関係を築くための様々な取り組みを実施しています。

地域との交流イベントの開催

毎年8月に事業所構内の一部を一般開放し、十三事業所(大阪市)では「ダイヘンまつり」を、ダイヘン産業機器(鳥取市)では「ダイヘン産業機器納涼祭」を開催しています。社員による模擬店の出店や盆踊り・抽選会等を行い、地域の皆様や当社グループ社員・家族との交流を深めています。



ダイヘンまつりの様子



お菓子プレゼント会広報チラシ

なお、2022年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止し、十三事業所にて「お菓子プレゼント会」を開催しました。

地域イベントへの協賛

十三事業所がある大阪市淀川区にて開催される「なにわ淀川花火大会」および、当社グループのダイホク工業のある北海道恵庭市で開催される「えにわシーニックナイト」への協賛を通じて、街の活性化に貢献しています。また、なにわ淀川花火大会の翌朝には花火大会清掃ボランティアへ社員が参加し、地域美化に貢献しています。

近隣学校等への学習機会の提供

近隣の保育園や小・中・高校生等を受け入れ、会社見学会や工場見学会を実施しています。中学生に対しては就労体験も行っており、当社の工場で実際の「モノづくり現場」に触れることを通じて、働くことの意義・面白さを伝えています。



ロボット工場見学の様子

大阪科学技術館への出展

大阪科学技術館(大阪市)に小・中学生を対象とした当社ブースを出展しています。「ワイヤレス充電が描く未来社会」をテーマとして体験コーナーやゲームを設置し、当社のワイヤレス充電システムや事業について楽しく学んでいただいています。



大阪科学技術館 当社ブース

本社の津波避難ビルへの活用

2018年2月に竣工した本社ビルは、大阪市の津波避難ビルに指定されています。津波等の自然災害発生時に近隣住民の方々の避難場所として活用できるよう、十分な耐震性能を備えるとともに、食料も常時備蓄しています。

フードドライブの実施

政府が提唱する「食品ロスの削減」を目的として、フードドライブを実施しています。自然災害発生時の避難に備えて社内で備蓄している食品(ペットボトル飲料水・アルファ米)に加え、社員の家庭で余っている缶詰等の食料品(米・お菓子・缶詰等)を持ち寄り、地域の社会福祉協議会・NPO団体等のフードバンクに提供しています。



フードバンクに提供した食料品

セレッソ大阪への協賛

2015年度よりセレッソ大阪のプラチナパートナーとして、スポンサー契約を締結し、チームの勝利を応援しています。なお、「ダイヘンサポーターティングマッチ」と称した公式試合を開催し、当社の認知度向上につなげています。



ダイヘンサポーターティングマッチ

©2018 CEREZO OSAKA

女性スポーツ選手の活躍を応援

女性の活躍を応援する企業として、2022年度より北海道千歳市出身の女子プロゴルファー「宮澤美咲選手」とスポンサー契約を締結しています。また、2023年度からは男子チームに加えて「セレッソ大阪ヤンマーレディース」とゴールドパートナー契約を締結し、チームの勝利を応援しています。



セレッソ大阪ヤンマーレディース

©2023 CEREZO OSAKA

その他の主な取り組み内容

- 大阪を拠点とする音楽団体への支援(大阪交響楽団・大阪フィルハーモニー交響楽団・関西フィルハーモニー管弦楽団等)
- 社会福祉法人「博愛社」(大阪市)が毎年開催する「博愛社カーニバル」へのバザー用品の寄付および、子供たちのミュージカル(劇団四季)への招待
- 各拠点における清掃活動の実施

品質

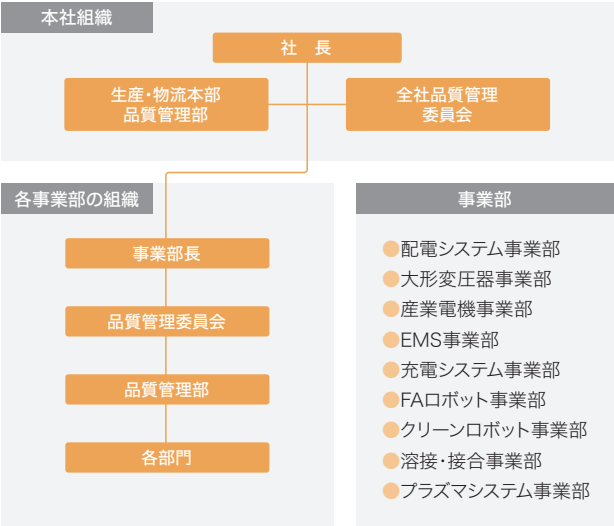
提供する製品・サービスが、人々の暮らしの基盤となる電力インフラの高度化やモノづくりの進化・発展等、「社会的責任の一端を担っている」という強い意志を持ち、創業当初から常にお客様に喜ばれ信頼される製品とサービスの提供に努めています。

品質方針

創業の精神、経営理念に則り、顧客の信頼に応える製品を提供する。

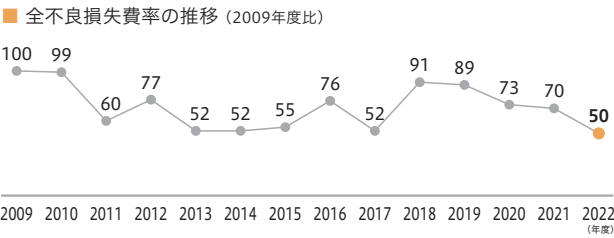
品質保証体制

各事業グループの品質マネジメントシステムのもと、事業部単位で品質管理委員会を設け、品質問題に関する報告・審議を実施しています。「全社品質管理委員会」にて、全ての事業部に共通する問題や重要品質問題の是正処置の審議等を実施し、各事業部へフィードバックしています。



品質の向上・品質問題未然防止活動の推進

品質の向上・品質問題の未然防止を目的として計画の策定を行うとともに、そのテーマに沿った取り組みを推進することで、全不良損失費の対売上高比率の改善につなげています。



品質関連教育の推進

社員一人ひとりが品質に関する意識・価値観・知識・スキルを身につけ、製品やサービスの品質を維持・向上・改善・革新することを目的に、品質管理の専門教育活動を国内外で継続的に実施しています。

ISO9001 認証の取得

1995年より、各事業部門にて品質マネジメントシステムの国際規格である「ISO9001」の認証取得に取り組み、現在では新規事業を除く全ての事業部門と海外生産拠点において認証を取得しています。

品質問題の未然防止に関する評価技術の磨き込み

製品の品質問題を未然に防止し、より信頼性の高い製品開発に活かすため、品質に関わる評価技術の向上や機能改善に努めています。

事例

配電システム事業部の耐候性評価

大型複合サイクル試験機

配電システム事業部では、お客様に製品を提供する前に、社内設備の「大形複合サイクル試験機」を用いて、実使用状態を模擬した耐候性評価を実施しています。社内で行うことによりフィールド検証の期間短縮を実現するとともに、耐候性に優れた構造・防錆性能に関するノウハウの蓄積につなげ、より信頼性の高い製品開発に活かしています。

主な研修内容

●QC手法研修

●ISO9001内部監査員養成・スキルアップ研修

●統計的方法講座

資材調達

お客様に価値ある製品・サービスをお届けするため、資材取引の原則・方向性を定めた「資材調達 基本方針」「パートナーシップ構築宣言」に則った健全な取引を徹底しています。特に、資材取引先（以下、取引先）とのパートナーシップは当社製品の品質維持と市場競争力強化に不可欠であると考えており、取引先とのコミュニケーションを深める様々な施策を導入し、共存共栄の関係構築に努めています。

資材調達 基本方針

オープンで
公平な機会提供

●当社では、国籍、地域、経営規模、取引実績の有無を問わず、全てのお取引先にオープンなお取引の参入機会を提供します。

公正な評価

●お取引先の選定に当たっては、競争原理を基本とし、品質・価格・納期に加え、経営信頼性・技術開発力等を総合的に勘案し、公平な評価を致します。

相互発展

●お取引先との相互信頼に基づき、健全な取引関係を維持し、相互の企業発展に努めます。

法の遵守

●お取引先との契約上の義務を誠実に履行し、法令および健全な商習慣に従い取引を行います。
●当社は、非人道的な行為を繰り返す武装勢力の資金源となる鉱物を使用しないことを紛争鉱物への対応方針とします。

パートナーシップ構築宣言

創業の精神「品質優良・価格低廉・納期迅速」・経営理念「信頼と創造」に則り、お客様の信頼に応える製品を提供するとともに取引先や事業者の皆様との連携・共存共栄の関係強化を図るため、「パートナーシップ構築宣言」を公表しています。

「取引先 方針説明会」の開催

当社と取引先の相互理解を促進することを目的として、毎年「取引先方針説明会」を開催しています。当社の事業方針・調達方針・各事業部の年度計画をご説明するとともに、取引において優秀な実績を挙げられた企業に対する表彰を行なっています。

「満足度調査」の実施

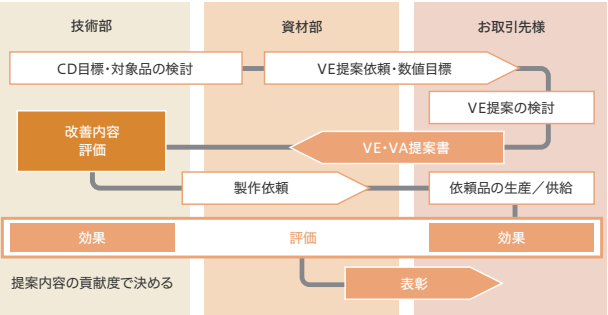
取引先との更なる信頼関係の強化を図るため、毎年「満足度調査」を実施しています。調査では、当社の調達方針や取引全般についての評価やご意見をいただき円滑な取引環境の構築につなげています。2022年度は153社の取引先に調査を依頼し、89%の取引先に回答いただきました。

「EDI取引」の実施

取引先とのコミュニケーションの強化を図るため、EDI取引を実施しています。Webを介して見積りを受け取ることでタイムリーな情報共有が可能になるとともに、統一フォーマット採用による見積業務の効率化・正確性の向上等により、取引先との最適な関係構築につなげています。

「VE・VA提案活動」の実施

取引先より当社製品に使用される資材や部品・部材に関する改善提案を受け、双方協議の上で採用可否を判断する「VE・VA提案活動」を推進しています。取引先の意見を取り入れ、両社が繰り返し協議を重ねるこの取り組みは、双方の納得と適正利潤を得る望ましい取引形態であると考えています。この活動を推進することにより、当社は製品の品質維持と市場競争力の強化の両立を図っています。



グリーン調達活動の推進

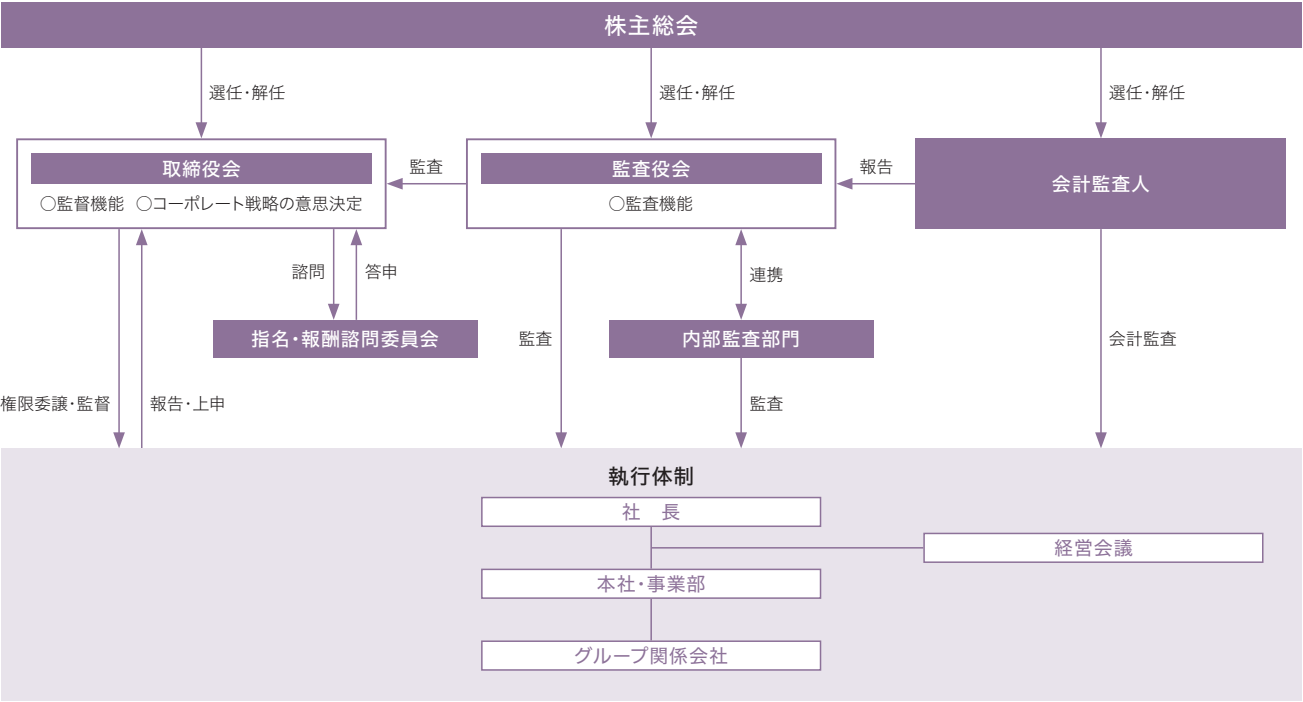
環境に配慮した製品を提供し、地球環境の保全・循環型社会の構築に貢献することを目的として、環境負荷の小さい部品・材料等の調達や使用禁止物質・管理対象物質の管理徹底等を図る「グリーン調達活動」を実施しています。方針等を明記した「グリーン調達ガイドライン」を制定し社内外へ周知徹底を図るとともに、適宜改訂を行うことで環境変化へも対応しています。また、調査回答ツール「chemSHERPA」を用いた化学物質調査システムを構築し、製品含有化学物質に関する法規制への対応に加え、適切な化学物質管理を実施しています。

コーポレート・ガバナンス体制

基本的な考え方

経営理念である「信頼と創造」に基づき、ダイヘンならではの価値を備えた製品・サービスの創造によりお客様のお役に立つことをはじめとして、全てのステークホルダーの期待に応え信頼を得ることが持続的発展と中長期的な企業価値向上につながるものと考えており、その実現に向け、実効性のあるコーポレート・ガバナンス体制の構築・強化を図ることを経営の重要課題と位置づけております。

コーポレート・ガバナンス体制図



会社法上の機関設計として「監査役会設置会社」の形態を採用しています。

取締役会

取締役会規則により定められた重要事項・法令により「取締役会決議が必要な事項についての最高決議機関・業務執行監督機関」と位置づけ、適正な構成員数での議論活性化・監督の強化を図っています。

監査役会

監査役全員をもって構成し、監査役会規則及び監査役監査基準に基づき、法令・定款に従い監査役の「監査方針」を定め、取締役の職務遂行を監査しています。監査役の機能強化のため経営・法務・会計等の専門的知見が高い適任者を選任するとともに、取締役会をはじめとする重要な会議への出席、業務・財産の状況調査における内部監査部門・会計監査人との連携、代表取締役との定期的な意見交換を行っています。

指名・報酬委員会

役員の選解任や後継者育成計画、役員報酬の構成・水準に関する事項等においての意思決定プロセスの透明性・客観性確保のため、取締役会の諮問機関として過半数を社外取締役・社外監査役で構成する指名・報酬諮問委員会を設置しています。

業務執行体制

執行役員制および事業部制を採用しており、迅速な意思決定とその実行に努めています。職務分掌・決裁基準により明確にされた権限範囲を超える案件については、代表取締役以下、常勤取締役・監査役で構成される「経営会議」による審議を経て意思決定しています。

役員一覧

当社の役員の構成ならびに各役員が有する主な専門性、経験等は次の通りです。

取締役および取締役兼務執行役員・監査役（2023年6月28日現在）

役職・担当	氏名	経営・事業戦略	法務・リスク管理	財務・会計	人材マネジメント	技術・研究開発	営業・マーケティング	海外経験・多様性
代表取締役会長	田尻 哲也	●	●	●	●		●	
代表取締役社長	養毛 正一郎	●				●	●	●
取締役専務執行役員	配電システム事業部、大形変圧器事業部担当	●			●		●	
取締役専務執行役員	溶接・接合事業部、FAロボット事業部担当	●				●	●	●
取締役専務執行役員	産業電機事業部、EMS事業部、充電システム事業部担当	●			●		●	
取締役常務執行役員	電力機器営業本部長	●	●			●	●	●
取締役常務執行役員	本社担当、リスク管理・コンプライアンス・安全担当	●	●		●		●	●
取締役 独立	安藤 圭一	●	●	●	●			●
取締役 独立	馬越恵美子	●			●			●
取締役 独立	藤原 康文					●		●
常勤監査役	東海 一郎	●	●					
常勤監査役	高橋圭太郎	●				●	●	●
監査役 独立	浦田 治男	●	●	●	●			
監査役 独立	吉田 正史			●				
監査役 独立	注連 浩行	●	●		●		●	●

執行役員・フェロー（2023年10月現在）

専務執行役員	山野 一郎	生産・物流本部長
専務執行役員	大市 啓晶	プラズマシステム事業部長、プラズマシステム事業部・クリーンロボット事業部担当
常務執行役員	上山 智之	技術開発本部長、技術開発本部接合技術開発部長、技術開発本部通信・制御技術開発部長
常務執行役員	栗山 忠士	配電システム事業部長
常務執行役員	森岡 正名	企画本部長
執行役員	西森 康博	充電システム事業部長
執行役員	荒井 敏行	電力機器営業本部副本部長、電力機器営業本部関西営業部長
執行役員	藤富 康彦	東北電機製造(株)代表取締役専務
執行役員	全 紅軍	OTC機電(上海)(有)董事長、牡丹江OTC溶接機(有)董事長(非常勤)、OTC機電(青島)(有)董事長(非常勤)、ダイヘン精密機械(常熟)(有)董事長(非常勤)
執行役員	井村 英樹	技術開発本部副本部長、技術開発本部企画部長
執行役員	ノベルト・クライネンドンク	OTC DAIHEN EUROPE GmbH 社長
執行役員	近藤 一喜	産業電機事業部長、産業電機事業部IH機器部長
執行役員	小澤 茂夫	企画本部副本部長、企画本部経理部長
執行役員	神品 泰宏	FAロボット事業部長
執行役員	平原 頼夫	クリーンロボット事業部長
執行役員	山口 耕作	溶接・接合事業部長
執行役員	服部 将之	EMS事業部長
フェロー	吉迫 裕司	技術開発本部プラズマ応用技術開発部担当
フェロー	福本 佳樹	プラズマシステム事業部研究開発部長

役員報酬

過半数が社外役員で構成される指名・報酬諮問委員会の答申を踏まえ、取締役会にて役員報酬の決定方針を定めています。

基本方針

企業価値の持続的な向上を可能とするよう、短期のみならず中長期的な業績向上への貢献意欲を高める報酬体系であること

常勤取締役の報酬(基本構成)

①固定報酬	75%	役位に応じて定めた報酬
②業績連動報酬	20%	短期の全社業績を反映する報酬
③株式報酬	5%	取締役が株価変動のメリット・リスクを株主の皆様と共有し、 株価上昇・中長期的な企業価値向上への貢献意欲を高めるための報酬

社外取締役・監査役の報酬

業績に左右されず経営の監督、監査を行う役割を担うことから「固定報酬」のみとしています。

個別報酬額の決定方法について

外部機関が実施する調査データ等の分析を踏まえ、会社業績・同規模他社の報酬水準・過去の支給実績・基本構成等を総合的に勘案して設定しています。さらに決定プロセスにおける公正性・透明性の確保を目的として、指名・報酬諮問委員会で報酬体系・報酬額案について審議を行うとともに、その内容を取締役に答申しています。取締役会では、同委員会の答申を尊重し決定方針に沿うものであるという判断のもと、取締役の報酬を決定しています。また、監査役の報酬については監査役の協議により決定しています。

取締役の報酬額について

2022年6月28日開催の第158期定時株主総会において、年額4億7千万円以内(うち社外取締役分は年額5千万円以内)と決議いただいています。決議時点での取締役の員数は9名(うち社外取締役3名)、現在は10名です。

2019年6月26日開催の第155期定時株主総会においては、上記の取締役の報酬額の範囲内にて、取締役(社外取締役は除く)に対する譲渡制限付株式に関する報酬等として支給する「金銭報酬債権」の総額を5千万円以内(譲渡制限付株式の数の上限5万株)と決議いただいています。(決議時点での取締役の員数は8名[うち社外取締役2名])

監査役の報酬額について

2008年6月27日開催の第144期定時株主総会において、年額8千2百万円以内と決議いただいています。(決議時点の監査役の員数は4名、現在は5名)

業績連動報酬等について

営業利益率を重視し中期経営計画の基本目標の1つとしていることから、連結営業利益率を基本指標とし、その到達水準・前連結会計年度との比較を考慮して報酬額を決定しています。当連結会計年度の連結営業利益率は2023年度目標10%に対し、8.9%(前期比0.1ポイント増)でした。

非金銭報酬等に関して

2019年6月26日開催の第155期定時株主総会にて導入の承認をいただきました譲渡制限付株式報酬制度に基づいています。当該株式報酬の交付状況は、下表の通りです。

■ 当事業年度中に職務執行の対価として会社役員に交付した株式の状況		
役員区分	株式の種類及び株式数	交付された者の人数
取締役(社外取締役を除く)	当社普通株式4,200株	6名
社外取締役	—	—
監査役	—	—

報酬の総額等

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	株式報酬	
取締役(社外取締役を除く)	323	229	76	17	6
監査役(社外監査役を除く)	40	40	—	—	3
社外役員	54	54	—	—	7

コンプライアンス

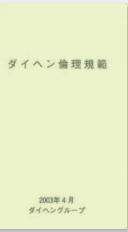
基本的な考え方

企業としての社会的責任を果たし、社会の皆様から信頼が得られるよう、様々な取り組みにより全社員のコンプライアンス意識向上とその実践に努めています。

その一環として、遵守すべき行動基準・法令を明記した「ダイヘン倫理規範」や「法令順守ガイド」を制定し周知徹底を図るとともに、コンプライアンス委員会・相談窓口の設置や教育の実施等により不正行為を未然に防止する体制構築に取り組んでいます。

ダイヘン倫理規範

法令をはじめ、社内規程やマニュアル、企業人としてのルールを順守することを基礎として、経営理念「信頼と創造」に則った具体的な行動指針を示す「ダイヘン倫理規範」を制定しています。社員が常に高い倫理観をもって行動できるよう手帳サイズの携帯版を全社員に配布しています。

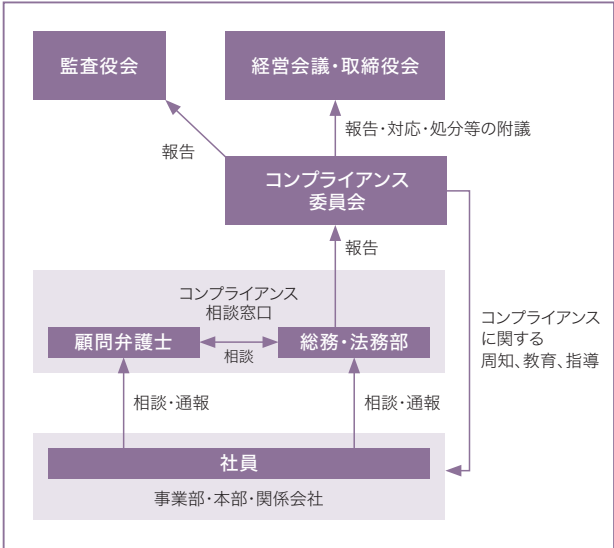


法令順守ガイド

法令に対する無知・不認識による違反行為の防止を目的に、下請法・独占禁止法・著作権法等、順守すべき各法令の概要・違反事例を記載した「法令順守ガイド」を作成しています。また、社員がその法令について自席のパソコンからいつでも参照できるよう、全社共通のグループウェアに掲載しています。

コンプライアンス委員会の設置

コンプライアンス管理体制の構築・維持・運用を円滑に行うことを目的に、コンプライアンス担当役員や各事業部・本部の部門長等で構成される「コンプライアンス委員会」を設置しています。委員会では、活動計画の策定や課題抽出、またその対応等の進捗について報告・審議を行い、コンプライアンスに関する取り組みを推進しています。



コンプライアンス相談窓口「ヘルプライン」の設置

不正行為の防止・早期発見・是正を目的として、社員がコンプライアンスに関する問題や疑問等を社内の担当部門または社外法律事務所へ相談・通報できる「ヘルプライン」を設置しています。なお、相談者の秘密を守り、相談したことにより人事・処遇面で不利益な取扱いがなされないよう「公益通報者保護規程」を定め通報者保護を徹底しています。

コンプライアンス教育の実施

企業倫理や法令順守の徹底・意識啓発を目的として、コンプライアンス教育を実施しています。社内講習会・eラーニングを通じて「契約書の締結」「下請法」「知的財産基本法」等の事業に関連する法令や「法令順守ガイド」をはじめとする社内規程の理解を深め、社員全員がコンプライアンスの本質を理解し「企業倫理を意識した行動を取る」ことができるよう、意識の定着・徹底に努めています。

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

「リスク管理委員会」を設置し、全社横断的なリスク管理体制を整備しています。品質・安全・情報セキュリティ・安全保障輸出管理・法令違反等のリスクに対しては、それぞれ所管する部門を幹事として規程の制定や委員会活動、教育を実施しています。その他にも、「危機対策規程」を制定し災害・事故等の緊急事態が発生した場合の対応・体制・行動等について明確にすることで、被害を最小限にとどめるよう努めています。

主要なリスク項目

当社が「連結会社の財政状態」「経営成績」「キャッシュ・フロー状況」に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下の通りです。

1 需要動向について

各事業における需要について、電力機器関連では国内・東南アジアでの送配電設備の更新・強化や国内でのビル・工場の新設・高経年化設備の更新、溶接・FAロボット関連では国内外の自動車・建設・造船業界等の設備投資、また半導体関連では半導体製造装置の設備投資等が主なものであり、これらの急激な変動が生じた場合には、売上高をはじめとした経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

2 販売・仕入価格の変動について

市場競争の激化に伴う販売価格の下落や銅等の素材価格の高騰が懸念されますが、これらの状況が著しく進展した場合には、売上高や利益率に悪影響を及ぼす可能性があります。

なお、輸出取引の為替変動リスクに対しては、海外生産拠点からの製品仕入やコストダウンを目的とした海外調達の拡大にも積極的に取り組み、外貨建債権債務のポジション調整によるリスクの軽減を図っています。

また、外貨建債権債務については、売上・仕入で相殺されるものを除き、常時為替予約によるリスクヘッジを実施しています。しかし、急激な為替相場の変動が生じた場合には、経営成績・財政状態が変動する可能性があります。

3 海外事業について

2023年3月期における連結売上高の海外売上高比率は20.8%となっていますが、今後も販売拡大が期待できる海外での事業展開に注力するため、海外売上高のウェイトは、より高い水準で推移すると想定しています。海外事業については主に現地法人を通じて取り組んでいますが、市場の成長性に不透明な要素があることに加え、政治・法環境の変化等、予期せぬ事象により事業の遂行に問題が生じた場合には、経営成績・財政状態が変動する可能性があります。

4 保有資産価値の変動について

当社グループは事業用の資産として様々な有形・無形の固定資産を保有していますが、今後の経営環境変化に伴いこれらの資産の収益性が著しく低下した場合には、経営成績・財政状態に影響を与える可能性があります。また、事業運営上、多数の会社の株式等に出資・投資しているほか、年金資産においても一部を株式で運用しています。

株式市場の動向悪化や出資先の財政状態の悪化により、保有有価証券の減損や年金資産の運用成績悪化が生じた場合には、経営成績・財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

5 金利変動リスクについて

2023年3月末現在の連結有利子負債（長短借入金の合計金額）残高は328億8千9百万円となっています。固定金利での長期安定資金の確保に努める一方、グループ全体の資金運用の効率化・資金管理の集中化、在庫圧縮等による有利子負債削減等、金利変動リスクを可能な限り回避するための様々な手段を講じていますが、変動金利借入利息、借換時における資金調達に関しては金利情勢の影響を受けるため、急激な金利変動が生じた際には、経営成績・財政状態が変動する可能性があります。

6 大規模災害等について

気候変動に伴う自然災害の増加等の対策として、リスク事象に応じた危機対策規程・事業継続計画を策定していますが、グループの生産・販売拠点において想定を超える地震・洪水等の大規模災害が発生した場合には、生産設備の損壊、原材料・部品の調達停止、物流販売機能の麻痺等により生産拠点の操業停止等が生じ、経営成績・財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。また、パンデミック・紛争・テロ等により事業活動に弊害が生じる場合も同様です。

知的財産

知的財産に関する活動において「リスクマネジメント」と「コンプライアンス」の両面を重視した取り組みを行っています。「基本原則」を定めるとともに、知的財産体制の構築、表彰制度・教育等を通じた社員への意識づけ等に取り組んでいます。

基本原則

知的財産に関する法令を遵守するとともに、他社の知的財産権に抵触しない製品をご提供することで、お客様に安心してご使用いただける製品の開発・製造・販売活動を行います。また、モノづくりの成果（製品・技術・サービス）を知的財産権により保護して他社製品との明確な差別化を図り、当社の優位性向上と事業安定化に活用します。

知的財産管理体制

特許・意匠・実用新案

技術・開発に携わる全部門で「知財戦略会議」を毎年開催し、知財戦略を立案・実行しています。また、各部門の知財活動上の課題についても、情報交換会等を通じて解決する体制を整え、適切なPDCAを回しています。

発明創出

外部の弁理士を活用した「発明発掘会」を開催し、発明のタイムリーな刈り取りや自社製品の早期保護に努めています。

商標

各事業部門に商標担当者を配置し、年に数回開催する教育や情報交換を通じてブランド力の向上につなげています。

知的財産権の尊重

定期的な他社特許等の公報を確認することはもちろん、新製品開発時や設計改良時にはデザインレビュー（設計審査）と併せて他社知的財産権の非侵害を確認するためのパテントクリアランス（侵害防止）を実施し、当社の製品・技術等が他社の知的財産に抵触しないよう徹底しています。

情報セキュリティ

情報の保護を企業活動における社会的責任であると重く受け止め、情報の適切な取扱い・管理・維持に努めています。組織的な情報セキュリティ体制の構築をはじめ、「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ対策規程」の策定、全社員を対象とした教育の実施など、グループ全体で情報セキュリティの強化に取り組んでいます。

情報セキュリティ体制

発生した問題の審議や改善策を検討する組織として「情報セキュリティ委員会」を設置しています。次年度活動計画の策定やセキュリティポリシーの整備、新たな情報セキュリティツールの導入検討等も行っています。

情報資産の管理・保護

「個人情報保護規程」を定めて個人情報の定義・範囲・取扱い等を明確にし、それを遵守することにより当社に関わる全ての

知的財産研修の推進

社員の経験年数に応じた段階・目的別の社内研修と日本知的財産協会主催の社外研修を組み合わせることで、能力の維持向上に努めています。

主な研修内容

- | | |
|----------|-----------------------|
| ● 契約教育 | ● 発明創出教育 |
| ● 特許初級教育 | ● 特許活用教育 |
| ● 特許調査教育 | ● 社外研修（日本知的財産協会の各種研修） |

方々の個人情報の保護・管理の徹底に努めています。なお、当社が保有する情報資産の大部分については、専用施設のデータセンター内にて管理しています。データセンターでは地震や津波等の災害対策はもちろん、構内への不正侵入や盗難を発生させないよう24時間365日体制で監視を徹底しています。

情報セキュリティ教育の推進

社員のセキュリティ意識向上のため、特定の企業や組織を狙った「標的型攻撃メール」に対する注意喚起・受信した際の訓練等、世の中の最新動向を踏まえた教育・啓発活動を実施しています。

11ヵ年データ

(百万円)

主な財務データ	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022(年度)
経営成績											
売上高	91,362	109,206	122,060	131,197	134,870	149,448	143,457	145,044	145,144	160,618	185,288
営業利益	2,984	6,343	8,415	9,329	8,705	10,054	8,369	9,065	12,183	14,191	16,568
経常利益	3,640	6,675	8,989	9,231	8,879	10,244	8,717	9,356	13,762	15,790	17,660
親会社株主に帰属する当期純利益	2,335	3,275	5,808	7,220	6,252	6,831	6,166	6,672	9,411	10,985	13,193
研究開発費	2,786	3,846	4,845	5,177	5,441	5,696	5,422	5,237	5,397	5,980	6,311
開発費※1	—	—	—	6,418	6,868	7,350	7,206	6,995	6,890	7,344	7,856
設備投資額	3,679	2,900	3,685	5,820	8,412	9,652	7,615	3,491	3,967	4,420	4,872
減価償却費	4,047	4,049	4,432	4,250	4,503	4,901	5,479	5,538	5,121	5,036	5,069

財政状態											
総資産	109,524	118,444	132,504	138,784	151,709	167,803	167,575	162,327	175,132	194,801	212,690
純資産	52,075	56,829	65,402	70,476	75,285	82,107	82,703	85,344	96,921	105,636	119,905
有利子負債	31,158	28,414	25,544	28,639	30,236	34,031	41,356	33,951	30,712	28,654	34,268
自己資本	49,673	54,883	63,161	65,525	69,942	76,715	77,358	79,964	91,174	99,693	113,800

キャッシュ・フロー											
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,800	8,009	10,247	5,317	10,672	5,943	2,081	17,057	13,937	12,950	△ 7,233
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,411	△ 2,705	△ 3,881	△ 5,846	△ 6,977	△ 8,007	△ 7,358	△ 4,318	△ 3,899	△ 3,299	△ 4,717
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 766	△ 4,671	△ 4,020	1,696	△ 1,485	1,678	4,434	△ 10,702	△ 5,576	△ 5,308	1,895
フリーキャッシュ・フロー	△ 611	5,304	6,366	△ 529	3,695	△ 2,064	△ 5,277	12,739	10,038	9,651	△ 11,950
現金及び現金同等物の期末残高	6,987	8,416	11,078	11,957	13,803	13,671	12,403	14,830	19,071	24,409	14,853

株式情報											
配当金(円)※2	7(35)	7(35)	8(40)	12(60)	12(60)	15(75)	48(80)	85	90	110	162
連結配当性向(%)	38.4	27.3	17.6	21.2	24.2	27.6	32.4	31.6	23.6	24.7	30.1
EPS(1株当たり当期純利益) (円)※2	18.22(91.10)	25.66(128.30)	45.51(227.55)	56.60(283.00)	49.58(247.90)	54.41(272.04)	246.83	269.06	381.28	445.29	537.67
BPS(1株当たり純資産) (円)※2	389.08(1,945.4)	429.99(2,149.95)	494.97(2,474.85)	513.63(2,568.15)	556.99(2,784.95)	611.11(3,055.56)	3,118.84	3,236.50	3,693.68	4,063.09	4,637.52

経営指標											
営業利益率(%)	3.3	5.8	6.9	7.1	6.5	6.7	5.8	6.3	8.4	8.8	8.9
海外売上高比率(%)	20.7	22.8	25.3	21.0	22.4	23.4	22.7	22.0	20.9	23.1	20.8
開発費率(%)※1	—	—	—	4.9	5.1	4.9	5.0	4.8	4.7	4.6	4.2
ROE(%)※3	4.9	6.3	9.8	11.2	9.2	9.3	8.0	8.5	11.0	11.5	12.4
ROA(%)※4	2.2	2.9	4.6	5.3	8.2	4.3	3.7	4.0	5.6	5.9	6.5
自己資本比率(%)	45.4	46.3	47.7	47.2	46.1	45.7	46.2	49.3	52.1	51.2	53.5
D/Eレシオ(倍)※5	0.63	0.52	0.40	0.44	0.43	0.44	0.53	0.42	0.34	0.29	0.30

主な非財務データ	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022(年度)
従業員数(人)	4,039	3,922	3,849	4,036	3,943	3,861	3,803	3,876	3,814	3,783	3,732
平均勤続年数(年)※6	12.7	13.5	13.7	14.5	14.9	15.5	15.9	16.2	14.3	17.1	17.5
自己都合離職率(%)※6	1.1	0.6	0.8	1.5	0.9	1.3	1.8	1.0	1.0	1.7	1.8
環境配慮製品売上高構成比率(%)※7	—	—	—	46.4	50.7	58.1	59.3	70.7	77.2	78.2	79.6
CO ₂ 排出量(Scope1+2)(t-CO2)※8※9	20,707(26,860)	19,417(26,991)	20,937(28,287)	20,354(27,355)	19,879(24,982)	20,450(24,732)	21,616(24,794)	20,478(22,692)	19,405	20,057	20,466
水使用量 (m ³)※9	163,599	165,886	169,552	149,418	155,789	152,098	146,112	126,368	118,726	121,372	126,490
廃棄物排出量(t)※9	776.0	933.0	924.0	1,062.0	913.0	911.0	993.8	928.0	990.7	859.7	939.8
PRTR指定化学物質大気排出量(kg)※9	29,669	43,566	50,804	84,659	83,542	101,758	99,949	109,180	76,928	67,630	54,575

※1 開発費は研究開発費だけでなく特許料などの開発関連費用を含む。開発費率は連結売上高に対する開発費の比率。

※2 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施。()内の数値は株式併合が行われたと仮定した際の数値。

※3 ROE：親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本(期首期末平均)

※4 ROA：親会社株主に帰属する当期純利益/総資産(期首期末平均)

※5 D/Eレシオ：有利子負債/自己資本

※6 (株)ダイヘン単体

※7 9事業部の国内製品売上高(部品、修理サービス等を除く)における環境配慮製品の売上高比率。

※8 CO₂排出量の2019年度以前は電気事業連合会の排出係数(自社努力を明確にするため京都議定書の基準年実績に固定)を使用して算定。2020年度以降はマーケット基準で算定。()内の数値はマーケット基準で算定し直した際の数値。

※9 対象範囲は、㈱ダイヘン(十三事業所、六甲事業所、三重事業所、千歳工場、兼平工場)および関係会社生産拠点(鳥取事業所、大分事業所、松戸事業所、恵庭事業所、弘前事業所、香川事業所)、海外生産拠点(牡丹江OTC溶接機、OTC機電(青島)、OTC DAIHEN Asia、DAIHEN ELECTRIC、ダイヘンOTC機電(北京)、ダイヘン精密機械(常熟))。

グローバルネットワーク

地域密着できめ細かいサービスを提供

ダイヘンの各事業は国内外を問わず、各生産拠点、支社・営業所や関係会社との間で緊密な連携体制を構築しています。
地域に密着したサービスとグループの総合力でお客様の課題解決に貢献します。

国内ネットワーク

◎ 主な関係会社

四変テック株式会社(香川県多度津町)
電力機器、電子機器、照明機器用安定器等の製造・販売

株式会社キューヘン(福岡県福津市)
変圧器、温水器等の製造・販売

中国電機製造株式会社(広島市)
変圧器、変成器、配電盤、制御盤、受変電設備、監視制御装置等の製造・販売

東北電機製造株式会社(多賀城市)
配電用変圧器・配電盤などの製造・修理、販売、据付工事

ダイヘン産業機器株式会社(鳥取市)
溶接機、制御通信機器、高周波電源、分散電源機器等の製造

ダイヘン青森株式会社(青森県弘前市)
各種ヒューズ、配電用機材、配電用機器、雷外防止設備の製造

ダイヘンスタッド株式会社(神戸市)
溶接機の販売、溶接材料の製造・販売、溶接工事

ダイヘン電設機器株式会社(大阪市)
産業用変圧器の製造

株式会社南電器製作所(香川県多度津町)
製缶、板金、その他関連機械器具の製造加工

ダイヘンテック株式会社(大分県杵築市)
クリーン搬送ロボット、充電システム機器等の製造・販売

ダイホク工業株式会社(北海道恵庭市)
製缶、板金、その他関連機械器具の製造加工

ダイヘンビジネスサービス株式会社(大阪市)
当社グループ各事業への支援・代行業務及び高齢者再雇用

株式会社ダイキ(大阪市)
変圧器部品の加工、不動産賃貸

ダイヘンエンジニアリング株式会社(大阪市)
変圧器、受配電設備の据付・試験・修理改造

株式会社ダイヘン厚生事業団(大阪市)
ダイヘンおよび関連会社社員に対する福利厚生事業



本社・十三事業所



電力機器の製造・販売、半導体機器の製造・販売

六甲事業所



溶接機の販売、産業用ロボット等の製造・販売

三重事業所



大形変圧器の製造

千歳工場



電力機器の製造

兼平工場



柱上変圧器の補修

ダイヘン産業機器株式会社



溶接機、制御通信機器、高周波電源、分散電源機器等の製造

ダイヘンテック株式会社



クリーン搬送ロボット、充電システム機器等の製造

海外ネットワーク

1 DAIHEN, Inc. (米国)



北米・中南米での溶接機、切断機、産業用ロボット等の販売

2 DAIHEN Advanced Component, Inc. (米国)



高周波電源、クリーン搬送ロボット等の販売

3 DAIHEN MEXICO S.A. de C.V. (メキシコ)



溶接機、切断機、産業用ロボット等の販売

4 OTC DAIHEN EUROPE GmbH (ドイツ)



欧州での溶接機、切断機、産業用ロボット等の販売

5 DAIHEN VARSTROJ welding cutting and robotics d.d. (スロベニア)



欧州での溶接機、システム製品の製造・販売

6 LASO tech Systems GmbH (ドイツ)



欧州でのシステム製品の製造、販売

7 Femitec GmbH (ドイツ)

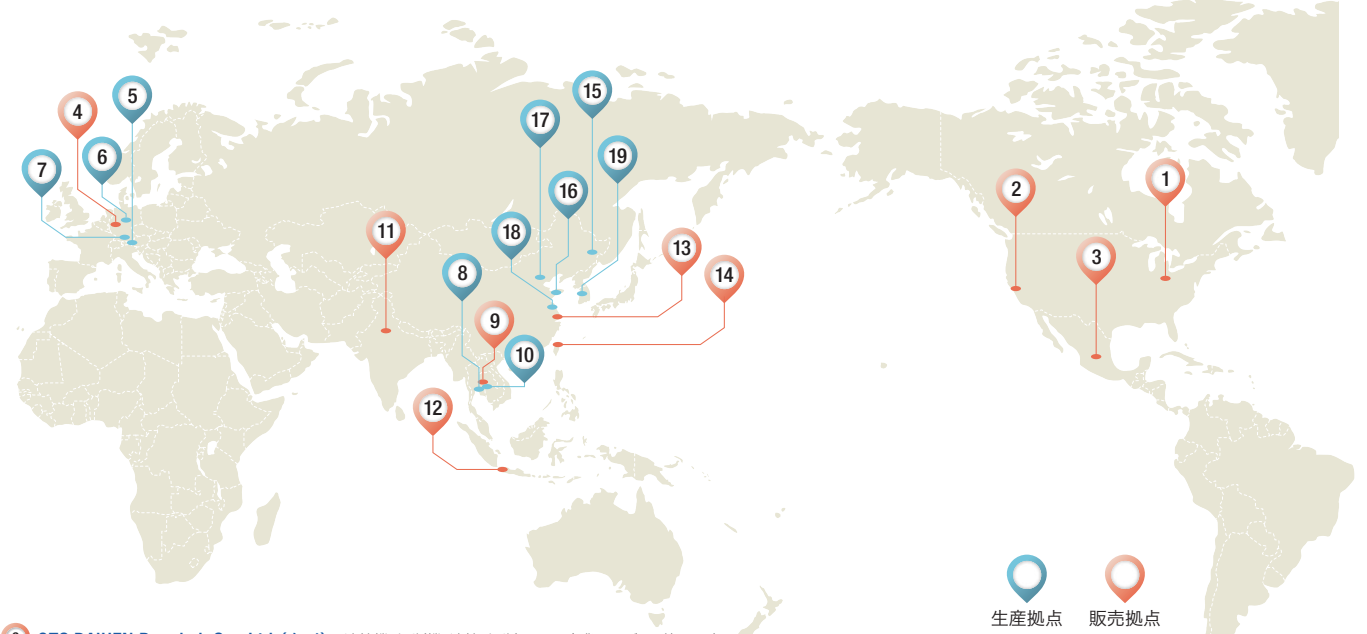


欧州でのシステム製品の設計、製造、販売

8 OTC DAIHEN Asia Co., Ltd. (タイ)



東南アジア・オセアニアでの溶接機、切断機およびその部品の製造・販売



9 OTC DAIHEN Bangkok Co., Ltd. (タイ)



大形変圧器等の製造・販売

11 OTC DAIHEN INDIA Pvt.Ltd. (インド)



溶接機、切断機、産業用ロボット等の販売

12 PT. OTC DAIHEN INDONESIA (インドネシア)



溶接機、切断機、産業用ロボット等の販売

13 OTC機電(上海)有限公司(中国)



溶接機、切断機、産業用ロボット等の販売

14 台湾OTC有限公司(台湾)



溶接機、切断機、産業用ロボット等の販売

15 牡丹江OTC溶接機有限公司(中国)



溶接機およびその部品等の製造

16 OTC機電(青島)有限公司(中国)



溶接機およびその部品、高周波電源等の製造

17 ダイヘンOTC機電(北京)有限公司(中国)



変圧器等の製造

18 ダイヘン精密機械(常熟)有限公司(中国)



クリーン搬送ロボット、産業用ロボット等の製造・販売・保守・点検

19 DAIHEN KOREA Co.,Ltd. (韓国)



溶接機、切断機、産業用ロボット、高周波電源、クリーン搬送ロボット等の製造・販売・保守・点検



Osaka Transformer Co.,Ltd.
"OTC"はダイヘンの海外向けブランド名です。

会社概要

商号	株式会社 ダイヘン
英文名称	DAIHEN Corporation
設立	1919年12月1日
資本金	10,596百万円
売上高	185,288百万円(2023年3月期、連結)
社員数	3,732名(2023年3月末現在、連結)
事業内容	各種電力機器、各種溶接機、産業用ロボット、 半導体製造装置用高周波電源、 EV充電システム等の製造、販売、修理
本社所在地	〒532-8512 大阪市淀川区田川2丁目1番11号 TEL(06)6301-1212(代表)
事業所および工場	十三事業所(大阪市) 六甲事業所(神戸市) 三重事業所(三重県多気町) 兼平工場(大阪市) 千歳工場(北海道千歳市)
支社	北海道支社・東北支社・東京支社・中部支社・ 中国支社・九州支社
URL	https://www.daihen.co.jp/



本社ビル(十三事業所)

本社ビルは津波避難ビルとして大阪市に登録しています。



本社ショールーム(本社ビル1階)

株式情報 (2023年3月31日 現在)

株式の状況

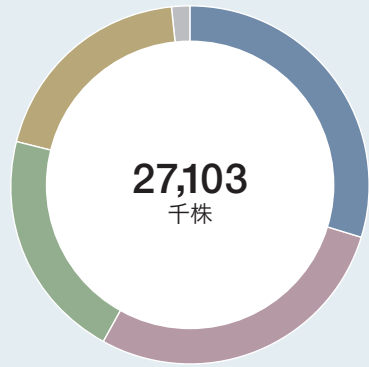
発行可能株式総数	108,000,000株
発行済株式の総数	27,103,291株
株主数	12,445名

株主の状況

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,929	11.90
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,542	6.26
関西電力株式会社	1,460	5.93
株式会社三井住友銀行	1,085	4.41
GOVERNMENT OF NORWAY	670	2.72
三井住友信託銀行株式会社	658	2.68
ダイヘン取引先持株会	595	2.42
BNYM AS AGT/CLTS NON TREATY JASDEC	462	1.88
ダイヘングループ社員持株会	452	1.84
岩谷産業株式会社	349	1.42

(注)当社は2,486千株の自己株式を保有していますが、持株比率は当該自己株式を控除して計算しています。

所有者別状況



金融機関	8,079千株／29.8%
個人・その他	7,655千株／28.3%
その他の法人	5,700千株／21.0%
外国法人等	5,262千株／19.4%
証券会社	404千株／1.5%

開示資料体系

法定開示基準に則った情報開示はもちろん、各種法令・規則に該当しない情報であっても当社を理解していただく上で有効な情報について、様々な媒体を活用し、公平かつ正確に実情を開示するよう努めています。



ESG情報の詳細は、ダイヘンコーポレートサイト「サステナビリティ」ページをご覧ください。

サステナビリティページの構成

環境	方針・体制	ガバナンス	コーポレート・ガバナンス
	自主行動計画		役員一覧
	気候変動への対応		役員報酬
	環境配慮製品		コンプライアンス
	生産時の環境負荷低減		リスクマネジメント
	ISO14001 認証		情報セキュリティ
	内部監査・事故/苦情		知的財産
	教育・啓発活動		グループ会社における業務の適正性確保
社会	環境会計		ガバナンス報告書
	人材戦略	ESGデータ	ニュースリリース(サステナビリティ関連)
	人材育成		社会課題解決に貢献するダイヘン製品特集
	ダイバーシティ・働きやすい職場づくり		
	安全衛生・健康		
	品質		
	資材調達		
	地域貢献		

サステナビリティページ
<https://www.daihen.co.jp/sustainability/>



お問い合わせ先

各種お問い合わせについては、ダイヘンコーポレートサイト「お問い合わせ」ページをご利用ください。
<https://www.daihen.co.jp/contact/>





株式会社 **ダイヘン**

〒532-8512 大阪府大阪市淀川区田川2丁目1番11号

電話06-6301-1212 <https://www.daihen.co.jp/>

発行 2023年12月 お問い合わせ先:企画本部 ESG室

